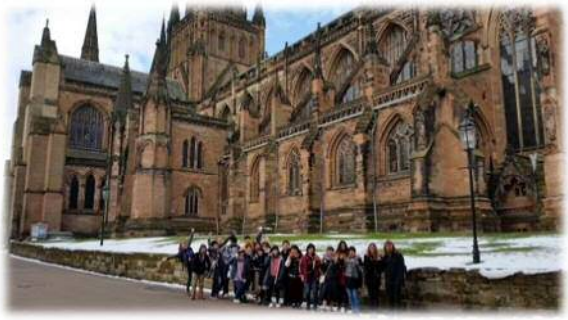
# Golden Days Abroad in Derbyshire

## ～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて ～

### 第４回ダービーシャー高校生派遣　帰国報告書

2018. 3



# 目　次

■はしがき　p1

■ダービーシャー派遣学生・引率教諭・受入家庭名簿　p2-3

■派遣日程　p4

■滞在中の当番日記　p5-17

■ホストファミリー紹介・派遣を終えて　p18-58

■英語感想文　p59-68
(Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English)

■豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料　p69-73

# は　し　が　き

豊田市長　太田　稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、１９８９年にトヨタ自動車株式会社が南ダービーシャー市バーナストン地区に投資を開始したことを契機に交流を開始し、１９９８年１１月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

ダービーシャー高校生派遣事業は、バートン＆サウスダービーシャーカレッジでの学校生活の体験、語学研修、現地学生との交流、ホームステイ等のさまざまなプログラムを通して、豊田市と同校の友好と相互理解を深め、国際感覚と知識豊かな人材を育てることを目指し、２０１４年度に開始しました。４回目となる２０１７年度の派遣事業でも、市内の高校及び高等専門学校に通う１５名の生徒が約２週間の派遣を無事に終え、ダービーシャーの様子や現地での異文化体験の記録を本報告書にまとめました。少しでも多くの市民の皆様に読んでいただき、ダービーシャーの魅力や、姉妹都市ならではの交流事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

さて、今年ダービーシャーと豊田市は姉妹都市提携２０周年を迎え、さまざまな記念事業が行われます。この高校生派遣事業をはじめ、ダービーシャーとの交流が、今後、ますます盛んになり、さらに発展していくことを祈念しています。

また、２０１９年にはラグビーワールドカップ２０１９™、２０２０年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、海外からの来訪者の増加が見込まれています。都市の国際化の進展には、市の将来を担う若い世代の皆様の国際的な感覚と行動力が不可欠です。今回、参加した皆様は、豊田市について、もう一度見つめ直すことができたと思います。この経験をきっかけに、英語や他の学問をさらにしっかりと学び、それぞれの立場で豊田市とダービーシャーの架け橋になっていただくことを期待しています。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力をいただきましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン＆サウスダービーシャーカレッジの事務局、ホストファミリー、ダービーシャーの皆様に心からお礼を申し上げます。

# 派遣生徒・受入家庭名簿（全１５名　男：５名、女：１０名）

| 氏　　名 | 学校・学年 | 受 入 家 庭 |
|---|---|---|
| 派遣生徒<br>小出　果歩<br>KAHO KOIDE | 豊田工業高等専門学校<br>２年 | The Phillips Family |
| 派遣生徒<br>加藤　美南<br>MINAMI KATO | 豊田西高等学校<br>２年 | The Brookes Family |
| 派遣生徒<br>澤野　真緒<br>MAO SAWANO | 豊田東高等学校<br>２年 | The Phillips Family |
| 派遣生徒<br>杉浦　夢唯<br>YUI SUGIURA | 衣台高等学校<br>２年 | The Long Family |
| 派遣生徒<br>髙濱　伽奈<br>KANA TAKAHAMA | 猿投農林高等学校<br>２年 | The Long Family |
| 派遣生徒<br>山田　光一郎<br>KOICHIRO YAMADA | 松平高等学校<br>２年 | The Kinnard Family |
| 派遣生徒<br>近藤　一哉<br>KAZUYA KONDO | 豊田工業高等学校<br>２年 | The Henchcliffe Family |
| 派遣生徒<br>山下　諒子<br>AKIKO YAMASHITA | 足助高等学校<br>２年 | The Shah Family |
| 派遣生徒<br>塚崎　純礼<br>SUMIRE TSUKASAKI | 豊田北高等学校<br>２年 | The Brookes Family |

## 派遣生徒・受入家庭名簿

| 氏　　名 | 学校・学年 | 受 入 家 庭 |
|---|---|---|
| 派遣生徒<br>野々山　音生<br>NEO NONOYAMA | 豊田南高等学校<br>２年 | The Dianne Family |
| 派遣生徒<br>藤井　彩香<br>AYAKA FUJII | 豊田高等学校<br>２年 | The Lewis Family |
| 派遣生徒<br>岡田　明弥<br>AKIYA OKADA | 豊野高等学校<br>１年 | The Henchcliffe Family |
| 派遣生徒<br>中村　駿伸<br>TOSHINOBU NAKAMURA | 杜若高等学校<br>２年 | The Dianne Family |
| 派遣生徒<br>雪野　愛華<br>MANAKA YUKINO | 豊田大谷高等学校<br>２年 | The Shah Family |
| 派遣学生<br>板谷　咲紀<br>SAKI ITAYA | 南山国際高等学校<br>２年 | The Fitzpatrick Family |

## 引率教員・受入家庭名簿

| 氏　　名 | 勤務先 | 受 入 家 庭 |
|---|---|---|
| 引率教員<br>石川　和代<br>KAZUYO ISHIKAWA | 豊田西高等学校 | The Uduak Family |
| 引率教員<br>臼井　雅敏<br>MASATOSHI USUI | 豊田北高等学校 | The Jenkins Family |

## 派遣日程

| 月　日 | 時　間 | 活　動　内　容 |
|---|---|---|
| 3月11日（日） | 10:50<br>15:20<br>16:50<br>17:25 | 中部国際空港　発（ルフトハンザ航空第737便）<br>フランクフルト国際空港　着<br>フランクフルト国際空港　発（ルフトハンザ航空第956便）<br>バーミンガム国際空港　着 |
| 3月12日（月） | 終日 | ホストファミリーと過ごす |
| 3月13日（火） | 午前<br>午後 | オリエンテーション、英語講座<br>キャンパスツアー |
| 3月14日（水） | 終日 | 英語講座（現地の学生との交流） |
| 3月15日（木） | 終日 | イギリス料理講座、日本料理の紹介 |
| 3月16日（金） | 終日 | 英国トヨタ自動車バーナストン工場見学 |
| 3月17日（土） | 終日 | オックスフォード日帰りツアー（オックスフォード大学、アシューモリアン博物館、市内見学等） |
| 3月18日（日） | 終日 | ホストファミリーと過ごす |
| 3月19日（月） | 終日 | リッチフィールド日帰りツアー（大聖堂、博物館、市内見学等） |
| 3月20日（火） | 終日 | クリエイティブ・メディア・ワークショップ |
| 3月21日（水） | 終日 | スポーツ・レクリエーション（ミニ・オリンピックデイ） |
| 3月22日（木） | 午前<br>午後 | エキシビション＆カルチャーショー準備<br>エキシビション＆カルチャーショー準備、エキシビション＆カルチャーショー |
| 3月23日（金） | 13:25<br>16:00<br>17:50 | バーミンガム空港　発（ルフトハンザ航空第955便）<br>フランクフルト国際空港　着<br>フランクフルト国際空港　発（ルフトハンザ航空第716便） |
| 3月25日（日） | 13:05<br>17:35<br>18:40 | 成田空港　着<br>成田空港　発（全日空第85便）<br>中部国際空港　着 |

## 研修等の日程

| | |
|---|---|
| 平成２９年５月　９日（火）<br>～８月３１日（木） | 派遣生徒募集・選考 |
| ９月１３日（水） | 派遣生徒決定 |
| １０月２８日（土） | 第１回事前研修会（派遣日程・参加負担金・渡航説明等） |
| １１月　４日（土）<br>～平成３０年３月　３日（土） | 語学研修（イギリス英語とアメリカ英語の違い、ホームステイ先でのコミュニケーションやエチケット等）、旅行者からの渡航の説明等 |
| ３月　５日（月） | 副市長・市議会議長への出発挨拶、表敬訪問 |
| ４月　３日（火） | 市長・市議会議長への帰国報告、表敬訪問 |

滞在中の当番日記

■滞在中の当番日記

**3 月 11 日（日）　　山田　光一郎**

その日は自然に目が覚めました。待ちに待った初の海外だからです。みんなと「いよいよだね。」と話しながら楽しくバスで中部国際空港に移動しました。そしてフランクフルト空港まで 13 時間飛行機に乗り、僕はこの 13 時間ほとんど座りっぱなしできついと感じました。そして、フランクフルト空港からバーミンガム空港に行き、その後バートン&サウスダービーシャーカレッジまでバスで移動しました。そこでホストファミリーと対面したのは夜 8 時くらいでした。僕のホストファミリーは夫婦で迎えに来て下さり、家に着いたら笑顔で家族が歓迎してくれてとても嬉しかったです。さらに 20 歳を越えたお兄さんがいましたが、その方がちょうど結婚したばかりで、お嫁さんと一緒に家を離れていくのを見て、すごい瞬間にホームステイしに来たなと驚きました。僕はリビングで飲み物を頂き、歓迎と家の説明を受けました。ですが、この日は疲れのせいや英語に慣れていなかったせいで、ホストファミリーの英語を少ししか理解することができませんでした。日本語で助けてくれる人はいない。自分の英語がまだまだ未熟なんだ。自分でオールイングリッシュの生活を乗り越えていく必要があるんだ。そう現実を突きつけられて、一気に不安になりました。ホストファミリーはこの日、長いフライトで僕が疲れていることに気づいて下さり、「今日は長旅で疲れていると思うから寝てもいいよ」と言って下さり、自分の部屋ですぐに眠りにつくことができました。果たして明日からの 2 週間オールイングリッシュの生活を楽しむことが出来るのでしょうか。最後の日には帰りたくないと言っている自分はいるのでしょうか。楽しみと不安が入り混じった第 1 日目でした。(山田)

**3 月 12 日（月）　　小出　果歩**

バディにバートンの町について案内をしてもらいました。スーパーマーケット、ショ

ップを巡りながら、「これがおいしいよ」「ここが安いよ」と教えてもらったことは、お土産を買うときに役立ちました。ありがたかったです。歩きながら、自分が学んでいることや、家族のことなど、いろいろな話をしました。私は、たくさん話をしていく中で、徐々に打ち解けていけるはずと信じて、とにかく何を話したら盛り上がるかを考えてひたすら会話を続けました。この日の 1 番の思い出といえば、バディとの会話が楽しかったことです。

昼には学校に帰って、カフェテリアでの初めてのランチでした。山盛りに入れられたチップスを見たときは、なんだかイギリスにいるという実感がわいた気がしました。衝撃的でみんなで驚きました。それも思い出です。

午後は、バディたちが考えてくれたゲームをしました。バディとの距離がぐっと近づいた気がします。私たちを楽しませてくれたバディたちに感謝です。派遣メンバーの一人が、韓国は英語で Korea のところを Corea と間違えたことは、バディも私たちも一緒に笑って、場を和ませてくれた、ナイスミステイクだったと今でも覚えています。一緒に笑うと、距離が縮まる感じがして、バディに、「笑顔は、仲良くなるための一番のツールだね」と言いました。ニッコリ笑顔でイエスと答えてくれて、嬉しかったことも覚えています。

この日は、バディと沢山話せて楽しかったことに加えて、次の日からのワクワクが増えた一日でした。（小出）

## 3 月 13 日（火）　　板谷　咲紀

前日はホストファミリーと共に過ごしていたので、私にとってはこの日が初めての登校でした。私のホストファミリーは Burton の隣町の Derby という所に住んでいたので、BSDC まではバスを乗り継いで約 1 時間かけて登校しなければならず、無事に着けるかどうか不安でいっぱいでしたが、特に問題もなく BSDC へ到着できました。到着後、BSDC やイギリスについての説明を受けてから、学生登録をしてパスをもらいました。そのあとは Catherine 先生による英語の授業がありました。先生はとてもフレンドリーで、たくさん話しかけてくださいました。授業では、自己紹介やお互いについて

の True or False のゲームなどをしました。午後はバディたちに学校の近くのショッピングモールに連れて行ってもらい、PRIMARK や Boots、Superdrug や Poundland など、日本にはないおすすめのお店を色々教えてもらいました。バディたちもとてもフレンドリーで、積極的に話しかけてくれました。

その日の夕飯は、プロのシェフであるホストマザーの Fay がイギリス料理の Sunday Roast というものを作ってくれました。本当は日曜日の夜に食べる伝統的な料理なのですが、日曜日は外出予定だったので、この日に作ってくれました。メインはローストチキンとポテトで、他にも、温野菜やパンも一緒に食べたのですが、全てが本当においしくて思わずおかわりを頂いてしまいました。美味しいデザートまで出して頂いて、おかげで初日の疲れが一気に取れました。Lauren と Riley とも食後に遊んで、朝から晩まで 1 日中充実していました。（板谷）

## 3 月 14 日（水）　　藤井　彩香

イギリス滞在 4 日目。天気は晴れ。

今日は BSDC（Burton ＆ South Derbyshire College）で終日英語講座でした。BCDC の教師である女性の Catherine 先生の授業を受けました。Catherine 先生はフラワーガーデンを趣味とする可愛らしい先生である反面、ヘビーメタルが好きだという意外な一面を持っている先生でした。

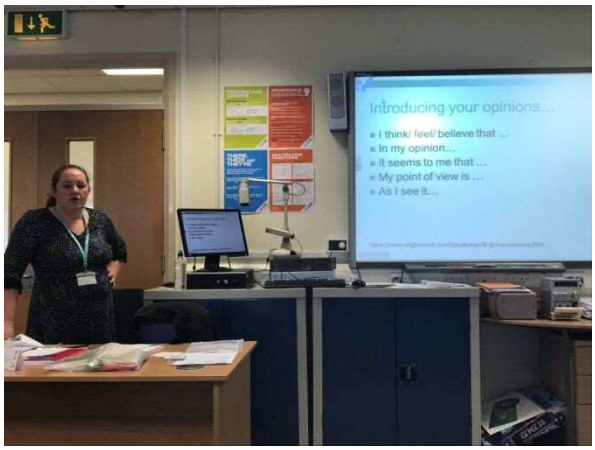
午前中はスライドを使って健康に良い食べ物と悪い食べ物について学んだ後、2 つのグループに分かれて英語でディスカッションをしました。ディベートをする前にグループの友達やバディたちと話し合い、楽しく意見を出し合うことができました。

ランチは学食で好きなお料理を選び、バディたちと一緒に楽しくおしゃべりをしながらおいしくいただきました。今回は特別にフルーツも付き、豪華な食事にお腹いっぱいになり食べきれないほどでした。

午後は Travel ＆ Tourism learners の生徒のみなさんが来てくれました。まず、4 つのグループに分かれてディスカッションを行い、その後にディベートを行いました。

私が意味のわからない単語などを聞くと、わかりやすく説明してくれる優しい生徒さんばかりでした。ディベートの場ではグループの人たちみんなが発表できるように気づかってくれ、私も少し発言する場を作ってもらい、参加できて良かったです。

今日いろんな人たちとコミュニケーションをした私は、英語に対してとても自信を持つことができ、楽しい一日を過ごすことができました。残りの日々もたくさんの人との会話を楽しみたいと思いました。




**3 月 15 日（木）　　髙濱　伽奈**

今日は英国料理作り体験とアフタヌーンティー体験でした。私にとっては大きな役割である、日本料理の紹介もありました。

英国料理作りでは各自にイギリス人のパートナーが付き、デザートやサンドウイッチなどの英国料理を各自分担して作りました。テーブルセットではナプキンを折り紙のような感じで綺麗な形に折ったり、スプーンやお皿、グラスなどを並べました。椅子の配置や、スプーンなどの配置にはとても厳しく、難しかったです。また、カップを運ぶ時は、カップの上にカップという 2 段重ねにして運んだので、落ちないか心配でした。料理作りでは、かなりの腕の力を使い大変でしたが、とても美味しくできました。

アフタヌーンティー体験では紅茶をいただきました。初めての English Tea は少し苦くて無理かなと思いましたが、砂糖やミルクを入れるととても美味しかったです。座るときに隣のイギリス人男性が椅子を引いてくれたり、何が欲しいか聞いてくれたりと、すごくジェントルマンだなと感じました。また、そのイギリスの方は日本語に興味津々で、「英語で『バイバイ』は日本語で何と言うの？」など色々聞いてくれたので、日本語を色々教えたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。

実際に自分たちで作ったものを食べると、とても美味しかったです。しかし、楽しいアフタヌーンティーが終わった後、プレゼンテーションが控えていた私はとても緊張していました。でも、周りの人たちが「頑張って！」と言ってくれたので少し緊張が和らぎました。プレゼンテーションでは上手く説明でき、日本料理の説明という大きな役割をやって良かったと思いました。終わったときに、「よかったよ」などと、イギリス

の方に声をかけられたのでとても嬉しかったです。

学校が終わってショッピングをした後帰宅し、ホストファミリーに「今日はどうだった？」と、聞かれましたが、自信満々に「It was nice!!」と言うことができました。とても充実した 1 日になりました。

**3 月 16 日（金）　　近藤　一哉**

イギリスにあるトヨタ自動車の工場(TOYOTA MOTOR MANUFACTURING UK)を訪問しました。車で 30 分ほどの場所にあって、思ったより近かったです。日本の工場と同じ車種を生産していると思っていましたが、ヨーロッパのみで生産している車種が 2 種類もあったので驚きました。ジオラマを見て、愛知県にある TOYOTA の工場よりこの工場のほうが大きく思えました。実際に工場見学をして、全体的に自分が見てきた工場より人が少なくて、動いている機械も少なかったです。工場のシステムとしては豊田市周辺の工場とほとんど違いがなく、ボディの製作や機械でのフレームの自動溶接、車の組み立てを行っていました。ただ、日本では車の中から部品を取り付けていましたが、ここでは外から取り付けていて、どうしてなのか気になりましたが、記憶が曖昧だったため、確信がなくて聞けませんでした。学園が行っているカリキュラムも日本とあまり変わりはありませんでした。学園生はとても厳しいと言っていましたが、とても楽しそうに話していました。（近藤）

**3 月 17 日（土）　　加藤　美南、塚崎　純礼**

オックスフォード観光の朝はいつもより少し早く始まりました。イギリスに来て初めての観光ということもあり、昨日の夜はわくわくしながら寝ました。学校からバスに揺られて約 2 時間。やっと着いたオックスフォードは、歴史ある建物と人々で賑わっていました。観光名所ということもあり、イギリス人のみならず、外国人や日本人も多く見られました。

最初に訪れた Oxford University の New College では実際にロケ地として使われたこともあり、ハリーポッターのような世界に魅了されました。古い建物でしたが、どこを見ても綺麗に整えられており、建物自体からも伝わってくる厳格さがありました。壁一面に作られたステンドグラスは光と色、絵柄のバランスがよく、うっとりと見とれてしまうくらいの繊細さがありました。見てまわりながら、さすが「世界一の大学」と見せつけられたような気がします。

その後はグループに分かれてショッピングを楽しみました。短い時間でしたが、念願の買い物がたくさん出来て嬉しかったです。

最後にアシューモリアン博物館に行きました。世界中から集められた芸術品たちが沢山集まる博物館です。中でも私が 1 番心惹かれた絵は”Convent Thoughts “です。細かいところまで描かれていて、後からスタッフの方に「ここで有名なものはなんですか。」と聞いた時その絵も有名なものの中に含まれていたので、やはり素晴らしい絵は私のような人にも分かるものなのかとしみじみと感じました。

オックスフォードは街並が綺麗で、古いものと新しいもの、また、そこに集まる世界中の人々とイギリスの人々、互いに邪魔をしない統一された外観デザイン、その全てがうまく調和が取れている素晴らしい地域でした。(加藤)

今日は、オックスフォード大学に行きました。オックスフォード大学について簡単に説明すると、オックスフォード大（University of Oxford）は、イギリスの大都市、オックスフォードに所在する総合大学で、11 世紀の末に大学の礎が築かれていることか

ら、現存する大学としては世界で 3 番目に古く、英語圏では世界最古の大学で、またハーバード大学、ケンブリッジ大学等と並び、各種の世界大学ランキングで常にトップレベルの優秀な大学として評価される世界有数の名門大学です。2016 年、2017 年に THE 世界大学ランキングで 1 位の大学に 2 年連続で選ばれたということです。世界で人気なだけあり、観光客も多くにぎやかな街にある大学だと思いました。ハリーポッターにも出てくる場面を実際に見て、みんなとてもワクワクして写真をたくさん撮っており、とても伝統を感じる大学でした。銅像や門は特に歴史を感じさせられる雰囲気がありました。また、オックスフォード大学の図書館も普段行っている図書館とは違い、オシャレで本の数もとても多いように感じました。

オックスフォード大学近くでバディーと一緒に買い物をしたり、昼食をとったり、とても楽しい時間を共に過ごし、時が過ぎるのをあっという間に感じた 1 日でした。（塚崎）

**3 月 18 日（日）　　杉浦　夢唯**

今日はホストファミリーと過ごす日でした。Steve、Marilyn と一緒に、Derby というところにある into Derby という大きなショッピングモールへ行きました。学校の近くにあるショッピングセンターよりも大きくて、ZARA や Super Dry など有名店が揃っていました。

ホストファミリーがオススメの店を紹介してくれました。ストロベリー味やビネガー味が試食できるチーズの店や、うさぎ型のチョコレートが売っている店で、お土産を買ったり、自分の物を買ったり、とても楽しむことができました。

3 階には、レストランやフードコートもありました。回転寿司があったので、私たちは日本のお寿司とどこが違うのか気になり入ってみました。テーブル席とカウンター席がありました。マグロは無く、カリフォルニアロールの種類が多かったように思います。値段は少し高めで、味が雑なものもありましたが、品数はとても多く、美味しかったので満足しました。

私はずっと行きたかった build a bear work shop に行くことができました。そこは意外と本格的で、ぬいぐるみの綿を詰めるところから始めます。ハートに願い事を込め

て綿と一緒に入れます。その後、服を選んだり名前を決めたりしていきます。とっても可愛いぬいぐるみができて幸せな 1 日になりました。（杉浦）

**3 月 19 日（月）　　山下　諒子**

今日私たちは、Lichfield Cathedral と Erasmus Darwin House に行きました。

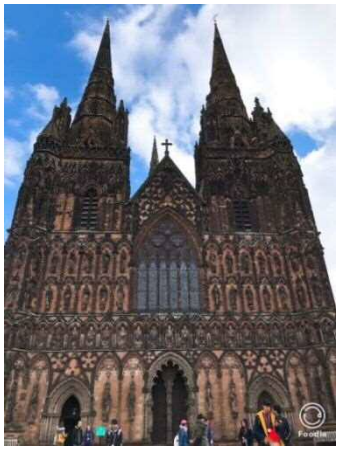
Lichfield Cathedral の外観はとても迫力がありました。中に入ると説教が行われていたり静寂に包まれていたりしたので、神秘的かつ緊迫した雰囲気を感じました。

また、壁には崇拝者の顔を表す彫刻や中世の壁画やステンドグラスが施されていて、とても美しかったです。ここは中世 3 世紀の大聖堂で、1,300 年以上の歴史を見る事ができます。イギリスで最も古い本などがあり、歴史を感じ取ることができました。

Erasmus Darwin House では、医者としてリッチフィールドにやってきたエラスムス・ダーウィンの会話や発明品などを見る事が出来ました。発明品は実際に触って体験する事ができます。例えばシルエットを映し出し、指でなぞることで、今で言う写真のようなものを作ったり、鉛筆が棒で繋がっていて、サインを書くと 2 個同時にサインが書けるコピー機などがありました。

中でも印象に残っているのは声を出す機械で、これは映像だったのですが、その時代に人間と似た声を出せる技術があったことにとても感動しました。

他にも顕微鏡を使って詳しく物を見ることができたり、イギリスの昔の時代の服を着たりする事もできます。様々な体験ができ、興味深いものがたくさん展示されており、とても充実した時間を過ごす事が出来ました。（山下）



## 3 月 20 日（火）　　岡田　明弥

晴れ

この日は、１日を通してクリエイティブ・メディア・ワークショップの日でした。BSDC でアートを専攻している現地の学生さんたちと少人数のグループを組み、今は使われていない家具などを再利用できるように、試行錯誤しながら各々アレンジをしました。この活動には大切な趣旨がありました。それは「地球にやさしいものづくり」です。とくに柄もない家具を、使用済みの授業プリントや、余った雑誌のページ、布でかわいいお花を作って、それらを材料にしてアレンジしました。僕たちの班は、大きい木製の小物入れのようなものを、殺風景な状態から下の写真(右)のような状態まで仕上げました。一見おしゃれなごく普通のデザインに思えますが、実はすべて英語の授業で使われなくなったプリントの文字の部分を切り取って使用しています。

この活動を通して環境問題への取り組み方を改めて考えるきっかけを得ました。今回習った「物の再利用」は、環境問題の解決に少しでも貢献できる一つの方法です。使用しなくなったらすぐに捨ててしまうのではなく、どうしたら工夫して使い続けることができるのか考えることはとても大事だと学びました。日本に帰国したら、家族や友人にシェアしたいと思います。（岡田）

## 3 月 21 日（水）　　雪野　愛華

今日は、ミニオリンピックをやりました。バディの人と私たち派遣団が均等に 5 つのチームに分かれてフットボール、卓球、バドミントン、アスレチックの 4 種目をやりました。フットボールでは、総当たりで行いました。どのチームもしっかりとバディの人と英語でコミュニケーションを取ることができていたと思います。卓球は、各チームでペアを作ってダブルスでやりました。ペア同士で声を掛け合ってプレイすることができていたと思います。また、どのペアも楽しんでやることが出来ていたと思います。バドミントンでは、コートを 2 人で左右で分担をしてプレイする作戦をしていたペアがいたり、前後で分担をしてプレイをする作戦をしていたペアがいたりなど、各ペアによって作戦が違って工夫してやることができていて、楽しむことが出来ていたと思います。お昼休みはバディの人たちと一緒に食べて、日本のことやバディの人たちの休みの日の過

ごし方について話したり、テニスをやらせていただきました。バディの人たちといろいろなスポーツをすることができて、とても楽しかったです。このミニオリンピックをしたことによってバディの人と私たち派遣団の仲がこれまで以上に深まったと感じました。また、私たち派遣団も語学勉強のときよりもはるかに仲が深まり、１人ひとりの個性も見られるようになりとても良いメンバーに出会うことができたと思いました。（雪野）

**3 月 22 日（木）　　野々山　音生、中村　駿伸**

今日は朝から夕方に始まるカルチャーショーの準備でした。カルチャーショーはイギリスに来る前の準備や話し合いが少なかったこともあり、当日に新しいことや変更が多く忙しかったです。

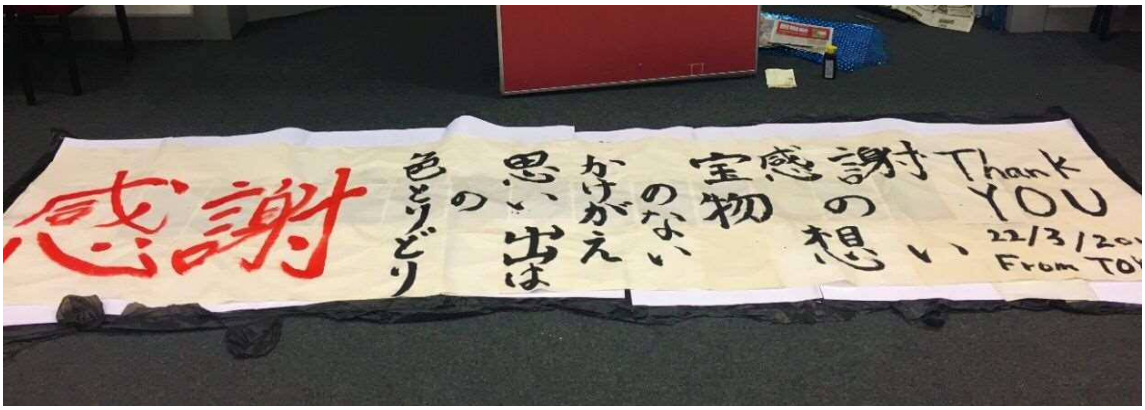
僕たちは日本の茶道、華道、書道を紹介しました。まずスライドショーで説明し、次にステージで実際に書道をやり、その後、ゲスト全員の名前を漢字で当て字にし、それを筆で書いたものをプレゼントしました。限られた時間でアルファベットの名前を漢字にし、その意味を説明するのはとても難しかったですが、とても盛り上がったので安心しました。最後に、大きな紙に感謝の気持ちを筆で書くパフォーマンスをしました。

ショーの次は立食パーティーでした。この時間が現地の人たちと過ごせる最後の時間でした。話したり、写真を撮ったり、シャツにサインをしてもらいました。

この日僕は現地の人だけでなく、派遣団のみんなともこの二週間で仲良くなれたと感じました。以前は月二回の研修以外で会うことはなかったですが、イギリスで毎日一緒に過ごすうちに打ち解けあって、カルチャーショー当日のミーティングでもたくさん意見が出て、予想より上の大成功のショーになったと思います。

この日は楽しい時間の終わりに泣いてしまう人もいて、多分みんな楽しい気持ちと寂しい気持ちの両方感じていたと思います。ですが、自分の感謝の気持ちを伝えることができ、いろんな人がまた会おうと言ってくれて嬉しかった最後の一日でした。（野々山）

今日はイギリスにいられる最後の日。今日は日本文化を伝えようとみんなで茶道・華道・書道の紹介をしました。茶道・華道は紹介だけでしたが、書道は実際に目の前で「和」と書いてみせました。本物の書道を見て、皆さんとても喜んでいました。ギリギリまで内容がまとまらず決まっていないことが多く焦っていましたが、みんなで協力しあいながら急ピッチで作業を進めていきました。パフォーマンスの一環として、一人の派遣生徒が感謝の意を込めて歌を披露しました。そのパフォーマンスはとても好評で派遣団のメンバーも感動で涙を流すほどでした。カルチャーショーの最後のショーでは、半紙をつなぎ合わせて作ったとても大きな紙に書道で大きな作品を作りました。見に来てくださった人々も「wonderful!」、「fantastic!」と称賛していました。最後はその作品をみんなで持って記念撮影をしました。そして１人一言ずつ感謝を述べてカルチャーショーを終えました。そのあとに修了式を開いていただき、BSDC での修了証書をいただきました。カルチャーショー、修了式を終えてから立食会に参加し、バディや BSDC の先生、ホストファミリーたちとカルチャーショーの感想やこれまでの感謝の気持ち、２週間の思い出などを語り合いました。本当にあっという間の派遣生活でしたが、とても楽しい思い出だらけで終わることができました。（中村）




**3 月 23 日（金）　　澤野　真緒**

今日は旅立ちの日。私たちがイギリスに来て約２週間がたちました。優しく接してくれたホストファミリー、明るく気さくに話しかけてくれたバディたち、そして、たくさん思い出が詰まったこの地とも今日でお別れです。

お土産をたくさん詰め込んだ重いスーツケースを持ち、私たちは BSDC へと向かいました。BSDC ではバディたちが私たちを出迎えてくれました。バディたちに会うと、この２週間の思い出が込み上げてきて、離れてしまう寂しさとたくさんの感謝の思いで私は涙があふれてきました。

やってきたお別れの時間。私はホストマザーとバディたち一人ひとりとハグをしてバスへ乗り、イギリスの素敵な景色ともお別れをして、バーミンガム空港へと向かいました。バーミンガム空港から約１時間３０分かけて小さな飛行機でドイツのフランクフル

ト空港へ行き、フランクフルト空港から約１２時間３０分かけて羽田空港までフライトしました。

２週間の疲れがあったせいか、どの飛行機の中でも爆睡でした。そのため、飛行時間が行きよりも短く感じました。

羽田空港から中部国際空港まで少し待ち時間があったので、友達とご飯を食べたり、楽しく話をしたりして過ごしました。（澤野）

## 3 月 24 日（土）　澤野　真緒

そして、いよいよ帰ってきた我らの豊田。中部国際空港やバスの中では初日のことを思い出し、懐かしく感じました。また、２週間ぶりの家族との再会は少し照れくさかったですが、久しぶりに家族に会えて安心と嬉しさを感じました。

この２週間は本当に充実した期間でした。家族や友人、現地でお世話になった方々、そして、市役所の方々には感謝しています。（澤野）

# ホストファミリー紹介・派遣を終えて

（１）ホストファミリーの紹介

（２）派遣を終えて

## 1　豊田工業高等専門学校　　小出　果歩

（１）ホストファミリーの紹介

ホストマザーが一人で生活している家にホームステイさせていただきました。ホストマザーについて、紹介します。スイミングスクールの先生とスーパーマーケットで仕事をしている、活発なお母さんでした。第一印象からパワフルさでいっぱいでした。出会ってすぐ、まだ英語に慣れない間は、ホストマザーがたくさん話しかけてくれました。おかげで私は、どんなことを話そうか、という点で迷うことなく、徐々に英語に慣れていくことができました。どんなときも、私が聞き取れる速さで話してくれて、わからないことがほとんどなく、派遣の中でもホストマザーと話している時間は特に楽しかったです。自分の日本でのことについてや、ホストマザーの普段のことについてなど、お互いに自身のことについての話もしましたが、ホストマザーにバートンの町についておすすめを聞いたり、日本文化について話したり、そういった話でも盛り上がりました。

ホームステイへの不安はやはり食文化の違いだったのですが、ホストマザーが用意してくださった食事は本当に全ておいしかったです。いつも健康的な食事を心がけていて、油は使わず、オーブンを使ったり、サラダは欠かさなかったり、朝はフルーツをいっぱい用意してくださいました。素敵な食生活だと思います。

ホストマザーの娘さん、息子さんにもお会いすることが出来ました。娘さんには、イギリス料理を手作りしてもらいました。ヨークシャープディングでした。これは、２週間の中で一番おいしかったです。息子さんには、２人のお子さんがいて、一緒に遊んだのも思い出の一つです。

（２）考えから生まれた考え

この事業には、旅行ではなく、派遣という形で海外に身を置いてみたいという理由で参加しました。外国との国際交流に意欲的な学生との意見交換は、派遣事業でのみ出来ることだと思います。派遣された２週間はなるべく多くの人に夢を聞くこと、また、私の夢について意見を聞くこと、この２点を頑張ろうと決めていました。そうすることで、日本では出会えなかった考えを見つけようとしました。これは、わたしの目標でした。

この目標を達成するために、積極的に学生に話しかけました。初対面の自己紹介の時に嬉しいことがありました。好きな食べ物、兄弟やペット、学校での好きな教科、聞いている音楽など、日本で行われる初対面での会話をしていると、「あなたは将来何をしたい？」と質問されました。日本で私は、初対面の人によくこの質問をします。答えが返ってこないことが多いです。そのような質問をされて、ワクワクしました。私の夢について話すと、どんどん踏み込んで質問をしてくれました。学生の夢を聞くと、たくさん夢を話してくれました。だんだん話す速さが早くなって、聞き取れないくらい、楽しそうに語ってくれました。出会ったばかりでこんなにも夢について語り合える学生を見つけたことが嬉しかったです。目標達成へのハードルが低いことが、すぐにわかりました。ＢＳＤＣの学生は、将来何をしたいかという考えを持っている人が多くて、それに向けて「今はこれをしている」という話までしてくれました。日本では少し考えにくいと思います。そういう夢を語り合える学生がたくさんいる環境に来ることができてよかったと、イギリスに着いてバディと出会って早々に思えました。そして 2 週間の間、自分から話しかけていった分だけ、たくさんの人の夢の話を聞いたり、意見をもらったりすることが出来ました。積極的に話そう、この人から何かを得よう、そうしていくうちに、私の目標は自然と達成されていきました。帰国後の今思えば、ＢＳＤＣの学生たちが、夢や意見をよく話すおかげで、あまり意識せずに、ただ積極的に話すだけで、自分の目標を達成できた気がしています。とても、楽しかったです。私自身、夢を話すのも聞くのも大好きで、日本では考えられないくらい、貴重で、刺激的な時間を過ごすことが出来ました。切磋琢磨できる友を見つけることが、日本よりも簡単です。バディと出会えて、本当に良かったと思います。正確には、バディからたくさんのことを得られてよかったと思います。彼らからしか得られない考えを見つけることが出来ました。やはり、旅行では難しい経験ができたと思います。

バディ以外からも、刺激はたくさん受けました。イギリスの古い建築の重厚感には、日本では味わえない感動を得ました。教科書だけでは感動は得られません。実際に見ることが出来たことは、今後、私の強みになると思います。英国トヨタ自動車は、工場内でごみをリサイクルすることに努めていました。そんなことができるのかと驚きました。調べてみると、日本にもそのように努めている企業はあって、こういった機会がないと知ることが出来なかったと思うと、知らないことだらけだと改めて気づきました。

買い物をしたときは、どこでも袋に入れないのが前提というか、入れるなら言ってくださいという感じがしました。とても良いと思いました。ごみは減るし、小さいものだったら自分のかばんに入るから困らないことが多いし、ちょっとした考えの違いだと思いましたが、その違いがごみを減らす気がします。言い方、順序が違うだけなのに不思議です。日本も同じ考えでもいいのかもしれないというのが私の意見です。良い刺激をたくさん受けて、良い国だと思いましたが、1 点、特に良くないと思ったことがあります。平気で食べ物を残すことです。日本の、「いただきます」と「ごちそうさま」の文

化は、世界に発信していくべき、素晴らしい文化だと感じました。日本にいるとわからない日本の良いところを見つけることが出来たと思います。

さまざまな文化の違いを見つけ、文化の違いの根底にある、考え方の違いを感じて、日本にもイギリスのこの文化は適しているのではないか、逆に、イギリスにも日本のこの文化があったらいいのではないか、と思うことが多々ありました。

このように、現地の学生や文化から、知らなかった考えにたくさん出会うことができました。そのなかで、それを知って良し悪しを決めるのではなく、自分の知っている考えのどれが今に適しているのかを考える能力が必要だと考えます。この２週間の間に出会った考え、得た刺激、本当にたくさんあります。自分が広がりました。最高の２週間でした。２週間の間、全力で自分の知らない考えに出会おうと積極的にアクションを起こしたから広がった自分です。今一番思うことは、自分から出会おうとしてよかったということです。

## 2　豊田西高等学校　　加藤　美南

（１）ホストファミリーの紹介

私は Anne さんのお宅にお世話になりました。ホストマザーの Anne さんとホストファザーの Martin さん、そして２匹の猫ちゃんと２週間を過ごしました。Martin さんは仕事でとても忙しく、平日は家に帰ってこないので土日だけしか会えませんでした。そのため滞在期間のほとんどを Anne さんと猫ちゃんと過ごしました。Anne さんは私たちのことをゲストとしてではなく、家族の一員として受け入れてくれました。だからこそ、朝は自分で起きて身支度して、自分で朝ごはんを用意して学校に行き、帰ってきたら食事の準備の手伝い、食べ終わった後には皿洗いと後片付けと、本当に家族の一員として２週間を過ごしました。Anne さんは料理が好きで、キッチンにはたくさんのスパイスや調味料、材料がありました。庭はとても広くガーデニングが趣味だそうです。歌やクラシックミュージック、バレエが好きでいろんな音楽を聞かせてくれました。ご飯を食べたあとにリビングでお話したり、音楽を聞いたりしていました。Martin さんは私たちにとても親切で、英語の指導までしてくれました。間違っていたときは、「もっとこうした方がいいよ」とたくさんのアドバイスを頂きました。最後まで猫ちゃんたち

はあまり懐いてくれませんでしたが、それも良き思い出です。このお家でイギリスを濃く感じられて本当に良かったです。

（２）私から見たイギリス

今回の派遣を通してイギリスを見つめることで、日本や自分の置かれている環境を客観的に見ることが出来ました。

BSDC での英語の授業の中のディベートで、私たちの班は「第二言語は学ぶべきか否か」について賛成派と反対派に分かれて討論しました。最初から意見が多く交わされ、その勢いの良さに圧倒されました。何度も意見を言おうと試みましたが、入る隙のないほどの激しい討論に日本との違いを感じ、驚きを隠せませんでした。あれだけ激しく言い合ったにも関わらず、終わった後は雰囲気が悪くなるようなことは全くありませんでした。普段日本で過ごす中で授業でディベートをやったこともありましたが、遠慮からなのか、活発な意見が交わされることはありませんでした。しかし、イギリスでは活発に意見が交わされ、私にはそれがひとりひとりがしっかり意見を持っているように見えました。空気を読む日本人の文化は誇れるものだと思いますが、それ以上に一人ひとりが自分の意見を持ち、そして持つだけでなく人に伝えることが大切であると感じました。私たちはこれからそのように変わっていかなければならないと深く考えさせられました。年齢は同じだけれども教育の制度も違い、私たちよりもより早く専門的なことを学ぶことが出来るからなのか、自分の夢や、やりたいことについて考えている人が多く、それもまた自分の意見をしっかり持っている理由だと思いました。また、イギリスにはそれぞれ違う肌の色を持つ人達がいます。しかし、肌の色が違ったとしても、ディベートの中で差別されるようなことはありませんでした。このディベートの中で、私は自分の意見をしっかり持つこと、それを伝えること、また相手を受け入れ尊重すること、様々なことについて考えさせられました。大きく視野を広げ、このようなことを考えられたことは、私にとって日本に居てはできなかったような貴重な経験でした。

一方で、イギリス人が食事をする時、食べきれないのに多く取って、その食べ残しを

当たり前のように捨てる光景には衝撃を受けました。綺麗に全部食べられたお皿を見ることの方が少なかったです。余ったおかずを次の日の朝ごはんやお弁当に使おう、アレンジして違う料理にしてみようという考え方はあまり無いみたいです。また、食べきれないほどたくさんのご馳走をくれたとの意味を表すことから、イギリスでは二口、三口分位の量を残すというマナーも存在するようです。日本人のように料理を残すと作ってくれた人に申し訳ない、残すのはもったいない、食事が出来ることに感謝しようという考え方を持っている人も少ないようです。しかし、日本においても食品廃棄がとても多くなってきており、日々の食事に感謝したり、好き嫌いで食べ物を残すことに罪悪感を感じる人が少なくなってきているのも事実です。去年の冬、私はミャンマーをを訪れました。そこには貧しく衛生環境も充分に整わないような地域もありました。だからこそ、そのギャップに衝撃を受け、食べ物を粗末にすることへの罪悪感にかられたのです。でも私は、その事を英語でイギリスの人に伝える勇気が出ませんでした。それが私にとって今回の最大の反省点でもあります。伝えることが唯一現地に行った人に出来ることだったのに。次にイギリスを訪れた時には必ず皆に伝えたいと思います。

私にとってイギリスで過ごした日々は二度と忘れることの出来ない素晴らしい発見と体験に溢れた 2 週間でした。その中でも印象に残ったことがあります。それは障がいのある人が特別扱いでもなく、軽蔑でもなく、スマートに受け入れられていることです。街中にバリアフリーが浸透していて、車椅子に乗っている人も日本より多く見かけました。仲間の輪の中に車椅子に乗っている人がいることも少なくありません。障害のある人も皆アクティブで、障害について恥ずかしく思っているようにも見えませんでした。日本より障がいのある人が過ごしやすい環境になっており、周りの受け止め方もスマートでした。その優しさが私にとって心地よく、素敵だなと感じました。

今回の派遣は私にとって初めてのイギリス、初めてのホームステイでとても緊張していましたが、一緒に行った仲間たちとバディ、先生方、スタッフのみなさん、市役所の方々のおかげで楽しく過ごすことが出来ました。また皆に会えるように英語の勉強を頑張って、この経験を周りの人に伝えていきたいと思います。そして、イギリスと日本を見つめて、見習わなければならないこと、改善しなければならないことなど、たくさんのことを見つけることが出来ました。そして世界に視野を広げ、人の役に立つ人間になれるよう、まずはこの経験を周りの人に発信していきたいと思います。

## 3　豊田東高等学校　　澤野　真緒

（１）ホストファミリーの紹介

今回、私は McGowan 家にホームステイする予定でしたが、当日の朝に家のお風呂が壊れてしまったので、急遽 Phillips 家にお世話になりました。Phillips 家には、ホストマザーの Elaine、娘の Michelle がいます。

ホストマザーの Elaine はとても優しく、たくさん話しかけてくれました。最初に会話をしたときはうまく聞き取れなくてあまりコミュニケーションが取れませんでしたが、日に日に一緒に過ごすうちに話すことがだんだん楽しくなってきました。また、とても食事がおいしく、毎日夕食が楽しみでした。

娘の Michelle は４日間という少ない時間しか会えませんでしたが、彼女は明るく気さくに話しかけてくれました。彼女もまた、料理が上手で、彼女が作ってくれた Toad in the hole の味は今でも忘れられません。

また、息子さん夫婦と、その子どもたちも遊びに来ました。子どもたちはまだ幼く、長男はとても元気でやんちゃな子でした。長女はまだ小さくて言葉がしゃべれませんでしたが、笑顔がとてもかわいい子でした。

ホストファミリー全員で行った夕食会は、とてもにぎやかで、旅行の話なども聞けて楽しかったです。

この２週間いろいろなことがありましたが、どんな時も優しく支えてくれたのはホストの方たちでした。本当に感謝しています。ありがとうございます。

私は、こんなに良いホームステイができて幸せです。この思い出は一生忘れません。

別れの日に、また帰ってくると約束したので、いつか絶対に会いに行きたいです。

（２）派遣を終えて

初めてのイギリス。たくさんの期待と少しの不安を持ち、約１３時間のフライトで、待ちに待ったイギリスへと到着。日本とは違った雰囲気。ドキドキと期待で胸を弾ませながら、私のイギリスの旅が始まりました。

さて、ダービーシャー派遣の感想の前に、私にとってすごく良い体験をしたと感じた出来事についてお話します。

私はイギリス滞在３日目にして、ハプニングを起こしてしまいました。なんと、迷子になってしまったのです。バスの運転手さんに言われて降りたところは全然知らない場所でした。とりあえず、バスは大学を出てから坂道を上っていたので、私は広い道に出て坂道を下ってみました。歩くこと約３０分。だんだん辺りは家がなくなって、広い野

原ばかりになってきました。泣きながら歩いていると、反対方向から若いカップルが歩いてきたので、「I'm　lost.」　と言い、ホストファミリーの家の通りの写真を見せました。すると、彼らはなんと「こっちの道だよ」と案内してくれ、私が分かる道まで、１時間３０分近く励ましの声をかけながら一緒に歩いてくれたのです。私はこの時、なんて優しい人たちなのだろうと思いました。日本で同じようなことが起きても、ここまでしてくれる人はそうめったにいません。他にも、大学やお店でもたくさんの人のやさしさに触れました。私は、この国の人々の温かさを自分の目で感じることができました。また、この出来事を機に、自分の甘さを再確認することができました。これからは、何が起きても対応できるよう、ちゃんと考えて行動しようと思えた一日でした。この出来事はある意味、私にとって良い経験になりました。

私はイギリスの生活や文化について学びたいと思い、この派遣に応募しました。今回この派遣で特に印象深かったイギリスの文化と習慣について次のようにまとめてみました。

一つ目は、建物の美しさです。空港からバスでの移動中、窓の外を見て「何てきれいな街なんだ。」と思いました。まるで、自分が映画の舞台にいるような感じがしました。

その中でも、一番印象的だったのがリッチフィールドの大聖堂です。私はイギリスでの移動中にたくさん教会を見ましたが、このリッチフィールドの教会の外見は極めて大きく、迫力がありました。正面には、歴代の王様たちの像があるとバディに教えてもらいました。見てみると、王様たちの顔は一人ひとり表情が違っていて、とても威厳がありました。建物の中もまた広く、ステンドグラスがとても美しく感じました。ステンドグラスには絵が描かれており、太陽の光が当たるとより美しく輝いていて、神秘的な空間を体験し、とても感動しました。

二つ目は、食事です。イギリスの料理は、全般的に味が濃く、すごくおいしく感じました。しかし、驚いたのは量です。以前から海外の料理は量が多いと聞いていましたが、あまりにも多かったのでびっくりしました。特に多かったのは chips の量です。最初に食べたのは BSDC の食堂でした。私は、鶏肉と chips を頼みました。すると出てきたのは、トルティーヤのようなもので包まれた鶏肉とパックいっぱいの chips でした。とてもびっくりしました。その日の昼食は食べきれませんでした。また、別の日に友達と大学付近の fish　and chips のお店へ行きました。そこでは M サイズの fish

and　chips を頼みましたが、出てきたのは大きな紙袋に包まれた物でした。中を見てみると、大量の chips と大きな魚のフライが。これは一人だと絶対に食べきれないと思い、友だちと食べるとちょうど良い量でした。でも、とてもとてもおいしかったです。

三つ目は、イギリスの人々についてです。学校では英語での授業やアフタヌーンティー体験、DIY 体験をして、分からないことを生徒達が気さくに教えてくれました。また、バディにかかわらず、イギリスの人たちは明るく優しい人が多かったです。ある日、友達が買い物で、チョコレートを買おうと思っていた時、通りすがりのおじいさんが、「このチョコレートよりこっちのチョコレートの方がおいしいよ」と教えてくれました。また、ある日バスの中で迷子にならないようにバス停の名前を呪文のように唱えていたら、近くに座っていた人が「次で降りるのよ」と教えてくれました。他にもたくさんの人が気軽に話しかけてくれました。2 週間でこんなに親切にしてもらったのは初めてでした。私は、日本での生活を振りかえった時に、自分に関係ないことは、見て見ぬふりをしてしまっていることが多かったように思いました。イギリスの方たちのように、誰にでも優しく接することができる人間になれるように見習いたいです。

今回、この派遣を通して、英語でしか会話をしない生活の体験や、人の優しさに触れたりとたくさんのことを知ることができました。この派遣を機に、自分自身をもっと成長させていきたいです。

こんなに充実した 2 週間を送ることができたのは、たくさんの人たちの支えがあったからです。本当に感謝しています。BSDC の先生方、ホストファミリー、そして、バディの方達にはたくさんの思い出をもらいました。どれも私の大切な宝物です。決して一生忘れません。Thank you.

## 4　衣台高等学校　　杉浦　夢唯

（1）ホストファミリーの紹介

今回私は、Long 家にホームステイさせて頂きました。以前にも、6 人の留学生を受け入れたことがあるお宅です。馬 2 頭と犬 2 匹を飼っています。家族構成は Steve という父、Marilyn という 55 歳の母、Emma という 29 歳の長女、Katie という 28 歳の次女の 4 人です。娘さんは結婚しているので、普段会うことはできませんが、Emma は 1 度会いに来てくれました。長女の Emma は東京に来たことがあり、日本文化に興味を持ってくれたので、鶴の折り方を教えてあげました。

次女の Katie は、フットボール選手でオリンピック出場経験がある方です。部屋にはメダルや賞状が飾られてあり、新聞に掲載された記事や試合の動画を見ました。

Steve は、お出かけする時だけ家に来てくれました。彼はオックスフォード大学出身の科学者で「He’s very clever!」と Marilyn が教えてくれました。

主に私が関わったのは、Marilyn です。彼女は、私たちと会った時から、ジョークを言って笑わせてくれました。私たちが学校へ行く時は見送りをしてくれたり、学校から帰ると「今日は何があったの？」といい、私たちとたくさん話してくれました。ディナーの後は、リビングで字幕付きのテレビを見たり、犬と遊んだり、Marilyn と話したりしました。彼女は、私たちを本当の娘のように接してくれました。Long 家にホームステイして本当に良かったです。幸せな 2 週間でした。

（2）派遣を終えて

実際にイギリスへ行くと、驚くことがたくさんありました。まずはバスについてです。ベビーカーを引いている方やお年寄りの方が乗ってきた時、子どもを含めた 2 ～3 人が瞬時に席を譲っていました。日本人も優しい人が多いけれど、イギリス人の温かさにも触れることができました。翌朝、バスに乗るためにバス停で待っていたら素通りされてしまいました。慌ててホストマザーに連絡して迎えに来てもらいました。ホストマザーに「イギリスでは手を挙げないと止まってくれないよ。」と言われました。手を挙げなくても止まってくれる日本がどんなに素晴らしい国かということに気づかされました。また、バスには音声案内がないので、自分が乗り降りするバス停や、周りの風景を覚えておかなければなりません。日本では乗り降りする際、挨拶する人は少ないけれど、イギリス人は、挨拶したりお礼を言ったり、社交的な人が多いなという一面も見受けられました。家から学校までは遠いのでバスで通っていましたが、よく揺れるので初めのうちは酔いそうでした。

アフタヌーンティーの体験は、各自イギリス人のパートナーが付き、ナプキンを折ったり、お皿やスプーンを並べました。ナプキンは難しそうに見えましたが、折り紙より簡単でした。ナプキンをお皿に置くと、高級感が漂います。長方形のテーブルでは、お皿とスプーンを向かいの席と対称に置くことを教わりました。

私はイギリスに行ったら、フィッシュアンドチップスは絶対に食べたいと思っていました。ホームステイ先の家族が、私に何でも食べさせてくれる人だったので、ディナーに出してくれました。美味しかったのですが、ナイフとフォークの使い方には慣れておらず苦戦しました。皿にはそれらの他に、味付けとして、グリーンピースのペーストもありました。そのまま食べるより、なめらかな味でした。私のホストファミリーは、デ

ィナーの後、必ずデザートを出してくれました。ティラミスやタルト、スコーンを食べました。思っていたより甘くて、濃厚なものが多いですが、これがイギリスだと受け入れて美味しく頂きました。イギリスの食事は野菜もあり、栄養面では良いのですが、量が多いのですぐにお腹が満たされてしまいます。

私が学校帰りに買い物をしていると、徐々に店が閉店していきました。店の看板を見ると、大抵の店が午後５時で閉店するそうです。イギリスは、労働者の生活スタイルを意識しているため、１日３時間～５時間働けば OK と聞きました。ホストファミリーに、日本のコンビニエンスストアは２４時間営業していることや、日本の労働者は１日８時間労働ということを話したら、かなり驚いていました。

今回私たちは、オックスフォード大学やアシューモリアン博物館、リッチフィールド、大聖堂を訪問し、それらに心が魅かれました。そこでは、教科書で見るような像やステンドグラスを間近で見ることができました。施設内はとても美しく雄大でした。３～４人の日本人生徒に BSDC の生徒がバディとして付いて、一緒に見学しました。バディは、「分からなかったら僕に聞いて。Don't be shy.」と言ってくれました。そのおかげで、バディとたくさん会話し、質問することができました。

１番驚いたのはスピードが速く、言っていることが思ったより聞き取れないということです。アメリカ英語との違いや速さなどによって聞き取ることができず、ショックを受けました。しかし、ホストファミリーや先生、バディは私が理解できるようゆっくり話してくれました。２週間ずっと英語を聞いていると、耳が慣れてきて徐々に聞き取れるようになっていきました。自分の言いたいことはバスに乗っている間や寝る前に考え、きちんと伝えることができました。１３日間いろんな人と会話をしながら、過ごすことができました。

今回の派遣で、私は自分の英語力の未熟さを思い知りました。もっと頑張って英語を勉強し、現地の人とスラスラ話せるよう語学力をさらに伸ばしてから、またイギリスへ行きたいという新たな目標ができました。

１３日間、ハプニングもあり、楽しいことだけではなかったけど、全てが密度の濃い時間になったのは、１４人の仲間と引率して下さった先生方、BSDC の生徒・スタッフ、市役所の方々と協力し合い、助け合ってこられたからだと思います。全ての人に感謝でいっぱいです。この経験は、一生の宝物になりました。

## 5　猿投農林高等学校　　髙濱　伽奈

（１）ホストファミリーの紹介

私は今回のホームステイで Marilyn Long さんのお宅に滞在し、お世話になりました。Marilyn さんには Steve という旦那さんと、独立している娘さんたちがいます。旦那さんと娘さんたちは、週に 1 回ぐらいしか家に帰ってこないので、私はほとんどの時間を Marilyn さんと過ごしました。

Marilyn さんの家には、たくさんの写真が飾ってありました。その写真を見ながら、「この娘はとても明るくておしゃれ好き！この娘はシャイだけど、スポーツが上手くてスポーツ選手なの！！」と楽しそうに娘さんのことについて話してくれました。
また、家にはローラとベンスリーという 2 匹の犬がおり、「ローラは大人しくて、ベンスリーはとても明るくてクレイジーだ」と笑いながら教えてくれました。Marilyn さんはいつも 2 匹に「beautiful！handsome！」と言って、犬を褒めていました。
Marilyn さんは本当に犬が大好きで、私の家にいる犬の写真を見せたら、「何歳なの？誰に懐いているの？」とか色々嬉しそうに話しかけてくれました。

毎日、家に帰ったら「今日は楽しかった？疲れた？」とか「今日は何を買いに行ったの？」と聞いてきてくれて、とても話しやすかったです。

夕食の後は「シブリングス」というアニメや、スポーツを見ながら今日あった出来事や日本での生活のことを話したり、イギリスのことについて話してもらったり、イギリスの音楽を聞いて歌ったりして、とても楽しかったです。
また、英語が早くて聞き取れない時や理解できない時も、ゆっくり話してくれたり、分かりやすく説明してくれました。

最後の日にはお土産をたくさんくれて、すごく嬉しかったです。

Marilyn さんはとても明るくて優しくしてくれたので、不安だったイギリス生活が楽しいものになり、私は 2 週間楽しく過ごすことができました。

また会いに行きたいなと思いました。

（２）派遣を終えて

初めての海外、初めてのホームステイ、色々な不安で胸がいっぱいのまま家を出ました。およそ 13 時間のフライトを終え、バーミンガム空港から BSDC のバスに乗っている時、「これからホストファミリーと会うのか」と緊張していました。しかし、初めてマリリンに会ったときに、すごく喋りかけてくれて嬉しかったです。でも何を言っているか分からないという気持ちの方が上回っていたため、私は「早く帰りたい、あと何日で帰れる？」と考えるようになってしまいました。しかし、それは自分が積極的に英語を話そうとしていなかったからかもしれないと思いました。いつも人に任せて、「自分はいいや」という自分の性格が悪いと思い、自ら話すようにしてみました。すると、イギリスでの生活は楽しいものになり、しだいに「あぁ、あと何日で終わってしまう。」という考えに変わっていきました。今思うとこれは大きな変化だと思います。

【ホームステイ】

最初は全く喋らずに、2 人でホームステイをしていたので、ホストファミリーとの会話は、もう 1 人の子に任せていて、私は質問されても「Yes/No」しか言っていませんでした。でも、マリリンは本当に優しく接してくれて、徐々に話せるようになりました。彼女の家は広くて、馬が 2 頭、犬が 2 匹いて、農業高校に通っている私にとってはとても勉強になる家でした。

また、マリリンの職業は歯科医院のナース、旦那さんは農家。私が興味をもっていたものが農業関係の仕事で、一緒にホームステイした子の将来の夢はナースという奇跡のマッチングでお互いに驚きました。

週末には、私たちの行きたかった大きなモールに連れて行ってくれました。私たちは“build a bear work shop”という、クマのぬいぐるみを作ることができる店でぬいぐるみを作りました。その後、寿司を食べさせてくれました。とても楽しかったです。
娘さんが家に来た時は、折り紙を一緒に折ったり、きらきら星を一緒に歌ったりと、とても楽しく過ごせました。

また、娘さんは日本語に興味を持っていて、英語で「〇〇は日本語で何？」と色々聞かれたので、日本語を教えてあげました。別れの瞬間には、泣いてしまうから駐車場でバイバイをしたけど、ハグをしてすごくいい思い出になりました。

【BSDC】

BSDC では色々な体験ができました。バディーの生徒は私たちと同い年とは思えないほど大人びていて、同い年と知ったときは驚きました。“Oxford”や“Lichfield”に行った時は案内をしてくれたり、オススメのお土産を教えてくれたりと、とても楽しかったで

す。
　カルチャーショーでは、習字や当て字を書いたりして喜んでもらえたので良かったです。ショーの後の立食パーティーでは、バディーたちと写真をたくさん撮ることができて嬉しかったです。別れの瞬間には、みんなハグしてくれて寂しかったけど嬉しかったです。

　私がイギリスで驚いたことが 3 つあるのでまとめます。
［お酒、タバコ］
　イギリスでは「18 歳以上が大人で、18 歳未満は子供」という規定になっており、18 歳であればタバコ、お酒は OK となっていました。
そのため、BSDC の生徒も学校の外でタバコを吸っていたり、「Do you drink alcohol？」と聞くと「Yes」と返ってくることも少なくはなかったため、驚きが隠せなかったです。
［バス］
　私はバスで毎日 40 分かけて BSDC に行きましたが、バスに乗るときは手を挙げなければ停まってくれないことを学びました。
日本では、人がいると停まってくれるため、バスが通り過ぎたときは驚きました。
日本の方が優しい！と思ってしまう部分もありましたが、イギリスではバスを降りるときに必ず全員「Cheers/Thank you」とお礼の言葉を言っていました。
日本では言わないことが多いため、イギリスの人はこれが日常になっていて素晴らしいと思いました。
［時間］
　日本では、時間はきっちり守る！という感じではあるが、イギリスでの予定は 1 時間ぐらい普通に遅れることがあり、何で遅れるの？と疑問に思ってしまいました。
でも、日本がきっちりしすぎているのではないかと感じました。
また、仕事は夕方 5 時ぐらいにはもう終わっていて、家族と過ごす時間がとても長くて 1 日がすごく長く感じました。

　このように学ぶことが多かった研修になりました。
　この研修を通して、私は新たにコミュニケーション能力は大切だということを学びました。それは、英語が話せなくても、コミュニケーション能力があれば、単語だけでも分かってもらおうとすればイギリスの人とコミュニケーションがとれるからです。
　私は、頭の中でずっと話す文章を考えていて、文章ができた時にはもうその会話は終わっているということが多く、後悔することが多かったです。しかし、コミュニケーション能

力は勝手に身についていき、自分から徐々に話しかけていけるようになりました。最初は話せない、だけど「Please take a picture with me？」と言うだけで写真を撮ることができ、その後も仲良く話すことができて一石二鳥だなと思いました。海外に行くことで、日本では学べなかったことがたくさん学べたので、これでよかったなと思いました。
これは一生忘れられない思い出になりました。

## 6　松平高等学校　　山田　光一郎

（１）ホストファミリーの紹介

僕は今回、Kinnard 家でお世話になりました。Kinnard 家では父の Andrew（アンディー）、母の Claire（クレア）、姉の Madeleine(マティー)と犬の Enya と Lily と一緒に 2 週間を過ごさせてもらいました。アンディーは僕の不安が無くなるようにたくさんのことをしてくれました。挨拶を「おはよう」や「おやすみ」などの日本語でしてくれたり、僕が行きたい場所をわざわざパソコンを使って調べてくれた方です。クレアはおそらく僕と 1 番英語を話した人で、朝ごはんの時や休日の時もすぐに話しかけて下さっていました。そして、派遣の後半になってくると、僕の英語を直していただいて勉強になりました。マティーは 20 歳で、ぼくの 3 つ年上の方だとは思えないほどしっかりとした人でした。ホストファザーとホストマザーは、仕事で夜いないことがたくさんありましたが、シスターのマティーがご飯を作り、僕に美味しい食事を食べさせてくれて、自分もこの方のようになれば日本の家族を助けることが出来ると思って、見習う必要があると思いました。

3 人に共通して言えることは、本当に僕を自分達の家族のように思ってくれて、優しく、成長できるように見守ってくれた人達ということです。僕がイギリス派遣を楽しめるように毎日 UNO やボードゲームをしてくれたり、家に友達を招待してもいいと言ってくださり、みんなで僕の家族と一緒に遊びました。僕は涙脆くないのですが、別れの時に笑顔でお別れしようと伝えたはずが、いつの間にか泣いていました。自分でも久しぶりに泣き、驚きました。それだけ良い人達に巡り会えたからだと思います。他にもこ

こに書ききれないくらいの思い出を作りました。言葉で表せないほど感謝をしています。

（２）イギリスでの思い出と学んだこと　～笑顔は世界の共通信号～

僕はこの派遣が人生で初めて日本を出た行事となりました。初の海外経験は初めてにはふさわしい良い経験がたくさんできました。

派遣までの日々は、楽しみ 4 割、不安 6 割の毎日でした。学校の代表として選んでもらっているのにとても申し訳ないと思っている自分がいました。ですが、派遣を終えた今ではもう一度イギリスに戻りたくて仕方がありません。イギリス派遣 1 日目では 14 時間のフライトを経て初めてホストファミリーに会いました。初日は自分の英語能力が全く足りていなかったせいで、ホストファミリーに家の説明を優しく教えていただきましたが、半分理解出来たか出来ていないかの状態でした。僕の初日の日記では「最後にはイギリスにずっといたいと思えているのか」という記録を残していました。ですが 2 日目からは 2 週間しかないという意識が働き、ホストファミリーや大学の友達と少しでも多く英語で話すことを心がけました。おかしな英語を使っていることもたくさんありました。それでもジェスチャーなどで自分の思っていることを英語で伝える努力をしました。そうしていたら、いつの間にかホストファミリーが「あなたの英語能力は素晴らしいよ」と言ってくださった。僕はこの言葉を頂いた時は嘘かとも思いましたが、とてもうれしかったです。何より派遣団の子で僕のホストの家に遊びに来てくれた子が教えてくれたのですが、「光一郎（自分）の笑顔と元気を見ていると私達まで楽しくなってしまいます。」とホストファミリーの方が仰ってくれたいたそうで、とても感動したと同時に自分のコミュニケーションスキルに自信がつきました。

派遣の際に 1 番楽しかった時間は？と聞かれると、どれもが新しい刺激のある出来事で決めることができませんが、嬉しかった瞬間は大学の子達と一緒に、環境に優しい家具を作った時でした。この行事はバートン&サウスダービーシャーカレッジの芸術科の子達と一緒に、何もデザインのない家具に、英語がたくさん書いてある要らなくなった紙を利用して良いデザインの家具を作るという行事です。僕の班は自分を含めた派遣団 3 人と 16 歳女性のカレッジ生徒 2 人と活動をしました。僕はこの時、ホストファミリーと過ごして培った明るいコミュニケーション能力が自然と出てしまう特性を使い、全

員で楽しくコミュニケーションを取ることができました。主に、洋楽を共に歌ったり、好きな歌手の話をしたりなど、多くのことをしました。そうしたらほかの机で作業していたイギリスのカレッジ生徒が僕らの机に遊びに来てくれて、たくさん話をしてコミュニケーションを取ることができました。休憩時間にはカレッジ生徒の方から「一緒にカフェに行って休憩しよ！」というありがたい言葉を頂きとてもうれしかったです。さらにその他の生徒達もカフェにいて、僕と SNS で繋がってくださり感動しました。授業が終わった後には一緒に写真も撮ってくれて、イギリスで友達を作ることが僕にもできたんだと思いました。本当に自意識過剰になってしまうのですが、このイギリスの方達がたくさん話しかけて来てくれたという出来事は、一緒に作業をしていた女子生徒が可愛らしいという理由もあると思いますが、少しは僕のコミュニケーション能力が良かったからなのではと思っています。そう思う理由としては、もしこれで僕が無口かつ笑顔なしで作業をしていたら、イギリス人は僕らに話しかけにくかったと思うからです。これは、僕は英語能力はまだそれほど優れていないけど、コミュニケーション能力はある程度あるという自信が付いた瞬間でした。

今回の派遣で僕は英語で海外の人とコミュニケーションを取ることにおいて 1 番大切なことが分かった気がしました。それは笑顔です。笑顔はコミュニケーションスキルの大部分だと思いました。イギリス人と話す時、笑顔でいると楽しくコミュニケーションを取ることができ、英語を聞き取ることができなくても優しくもう一度言い直してくれるなど、英語能力が足りなくてもその分コミュニケーション能力で補うことが可能になることを経験することができました。確かに英語能力が完璧なら海外で苦労することはないと思います。ですがそれだけでは上手くコミュニケーションを取ることは難しくなると思います。

最後に僕はこの派遣に参加して本当に良かったと思っています。初日不安になってた自分が嘘のように感じます。僕はそれほど涙脆くはないのですが、最後にホストファミリーと別れる時、抱き合っていたら自然と涙が出ていました。自分でもなんで泣いてるの？と思ったほどでした。最後に家に出る前に「悲しくなるから笑顔で別れよう。」と提案したはずだったのに、です。しかしそれだけ素晴らしい人達に会え、充実した 2 週間を送ることが出来たからだと確信しています。派遣前は自分の進路にとても悩んでいましたが、この派遣を通じて、もっと英語能力を身につければさらに楽しく海外の人とコミュニケーションを取ることができると気づきました。まだ本当に実現できるかは分かりませんが、ここで挑戦もせずに諦めたらきっと後悔をする。もうイギリス派遣での充実した時間を過ごす機会は格段に減ることは確かだと思いました。この派遣で学んだことや身につけた自信を活用して自分の未来を作っていきます。

## 7　豊田工業高等学校　　近藤　一哉

（１）ホストファミリーの紹介

僕は Monica Henchcliffe さんの家にホームステイしました。

Monica さんの家には Lilly と Becky という名前の 2 匹のネコがいました。Lilly はとても人懐っこくて初めての人が触ってもあまり嫌がりません。また、たくさん触れ合って認めてもらえると自分から僕の後をついてきたり、他のことをしていると側に寄ってきて寝たりします。

最初は Monica さんの発音に癖があり、聞き取るのが難しかったですが、癖がわかってくるとしだいに何を言っているのか分かるようになってきたので、会話が成り立ち、弾むようになった。

Monica さんはとても優しくて、どんな小さな要望でも応えようとしてくれます。また、Monica さんの家での生活ルールも細かいところまで優しく教えてくれます。そのため、わからないことがあったときの質問はとてもしやすかったです。

お土産として海老煎餅をあげたら、実際に食べてくれて「おいしい」と言ってくれたので嬉しかった。

今度、豊田市に来ると言っていたので、今度は僕が豊田市を教えてあげたい。今度はもっとたくさん会話をして Monica さんと更に仲良くなりたいです。

（２）初めての留学

僕は今回の留学で驚いたことを大きく２つの点に分けて説明します。

１つ目に驚いたのはイギリスの交通システムです。

まず、道路脇に車を駐車していたことです。日本では車が駐車できるように駐車場を設けてある家がほとんどですが、イギリスでは駐車場がない家が多くありました。家に駐車場がない場合は家の前の道路に駐車していました。そのため、道路にはたくさんの車が止まっていて、少し交通量が増えるだけで渋滞することもありました。これを見てどうして全部の家に駐車場を作らなかったのか疑問に思いました。ですが、狭い道を互いに譲り合う毎日がイギリス人の優しさを育てていると思いました。

また、イギリスの信号は歩行者専用だけだったことです。交差点はラウンドアバウト方式を取り入れているため、車両用の信号は見ませんでした。ラウンドアバウトは中学のときに勉強しましたが、ぜんぜんイメージがわきませんでした。でも、今回初めてラウンドアバウトを見て、どんなものなのか、どういう使い方なのか少し分かった気がします。

信号が日本より少ないのに、事故が多いようには見えませんでした。それは、みんなが信号に頼っていないからだと思います。信号が青になったら渡れるとだけ思っている日本人がたくさんいます。それに比べてイギリス人は、道路を渡るときに毎回車がいるか確認するため事故が少ないのだと思います。信号に頼るのではなく、自分で判断することも大切だと分かりました。自分の身は自分で守らなければならないと改めて思いま

した。

２つ目に驚いたことはバスの最終便とお店の閉店時間の早さです。

今回、通学にバスを使って最終便が日本よりも早いことに気づきました。日本では午後９時頃が最終便ですが、イギリスでは午後７時が最終便でした。２回友達がホームステイしている家で遊びましたが、バスの最終便が早いため、遊ぶ時間がとても短かったです。

今回の通学で初めて２階建てバスに乗りました。僕は乗車して迷わず２階に行きました。一番前が空いていたので、そこに座り、帰り道をずっと２階から眺めながら帰りました。２階建てバスに乗るだけでなく、一番前に座れるという思いもしなかったことが

できたので、とても嬉しかったです。

日本は午後８時頃に閉店しますが、イギリスでは午後６時にはスーパーマーケット、レストランを除いた服屋、インテリア用品店、カフェなどのほとんどのお店が閉店してしまいます。そのため、お店はそれほど多くないのに買い物できる時間が短いので、１日では回りきれませんでした。特に毎週日曜日のお店の営業時間はとても短いです。ほとんどのお店が午前１０時に開店して午後３時に閉店するので、いつもよりさらに買い物時間が短くなってしまいます。バスも午前１０時以前、午後３時以降の便が少ないので、街を散策することも難しかったです。

また、街の中にあるトイレが少ないように思えました。日本ではどこのショッピングモールも１つのフロアに２箇所はあると思います。ですが、イギリスでは１箇所しかありませんでした。トイレもお店の閉店時間と同じ時間帯に閉鎖されてしまいます。買い物が終わってからトイレに行こうとしたら、すでに閉鎖されてしまって行けなかったときもありました。

ですが、日本に比べて営業時間が短い分、労働者の過労はないように思えました。自分のホストマザーも午前６時に起床して午後１０時に就寝するようなとても健康的な生活を毎日送っていました。買い物をするほうにとっては残念ですが、働き手にとってはとても良い環境だと思いました。自分も働き手になる日がきます。そのときにイギリスのような社会環境が日本にもあって欲しいです。

最後に、今回の留学を通して、それほど多くの英文法を知らなくても、伝えたいことを伝えることができると分かりました。ですが、自分が知っている単語がとても少なかったので、相手が言っていることが何なのか聞き取ることが難しかったです。

また、どの人と話しても話し方に癖があることが分かりました。そのため、相手にどんな癖があるのか見つけることから始めなければならなかったのでとても大変でした。癖の強さは人それぞれだったため、癖が少ない人の話は聞き取ることができました。

現地の英語は学校での英語の授業や事前研修での英語の速さよりも速かったため、何を言っているか分からないときが多くありました。

それでも伝えたいことが相手に伝わったとき、相手の話が聞き取れたときはとても嬉しかったです。

結果、自分の英語力では海外では全く通用しないことが分かったので、今よりもたくさん勉強して、将来自分の英語が通用するようにしたいです。

## 8　足助高等学校　　山下　諒子

（１）ホストファミリーの紹介

今回の派遣では shah 家にお世話になりました。76 歳の Aqeeda さんと息子さんの Mansool さんの２人暮らしでした。

Mansool さんは初日の車の中で緊張している私達に質問や冗談などを言って場を和ませてくれました。Aqeeda さんは笑顔で私達を迎えてくれて、家に帰ると必ず「Hello！」と言い、「今日は大学で何をしたの？」「何を食べたの？」と聞いてくれました。また、家のルールとして自分で使った食器は自分で洗うことなどが決まりでしたが、いつも私たちの様子を優しく見守っていてくれました。ホストファミリーの分の食器を洗うと「Good　girl」と褒めてくれて嬉しかったです。

私がホストファミリーとの会話で一番印象に残っているのは、食事の時の会話です。私が、自己紹介として弓道の動画を見せたら「great」と言ってくれました。それから、私達が日本の物としてお茶漬けを紹介したら「おいしい。」と言って全部食べてくれたので良かったなと思いました。

時々、お孫さんや Mansool さんの兄弟が来ていることがありました。皆とても明るく私達と会話してくれました。特にお孫さんは元気いっぱいで圧倒されるほどでした。小さい子の英語は聞き取りづらくて大変でしたが、仲良くなれました。

私は英語力に自信がなく人見知りなので、ちゃんと話せるか心配でしたが、温かいホストファミリーのおかげで会話をできて楽しかったです。また、もっと英語を話せるようになりたいと感じました。

（２）派遣を終えて

私は今回の海外派遣が初めての海外だったので、何もかもが刺激的でした。まず、イギリスに着いた時に街並みのきれいさにびっくりしました。日本よりも全体的に建物が高く、レンガ造りになっているものが多く、おしゃれだという印象を受けました。

派遣中に訪れた場所はどこも素晴らしく、英国の TOYOTA では、部屋の名前が日本語になっていたり、工場内の合図の音が日本の曲だったりと、日本との関わりを感じて嬉しかったです。また、英国 TOYOTA の浅井さんの「日本では受け身でもチャンスはあるけど、海外では積極的に動いていかなければいけない。」という言葉に感銘を受けました。オックスフォードでは、雪が吹雪いていたのでとても寒かったのですが、ハリーポッターに出てくる場所などを見る事ができ、その建物の雄大さは寒さが吹き飛ぶほ

どでした。美術館にも行って色々な芸術品を見て、目の保養になりました。

私はイギリスに来るまで、イギリス人に対して冷たいイメージを持っていました。ですが、イギリスで生活してすぐにそんなことはないと分かりました。例えば人がすれ違うたびに「Sorry」が飛び交っていました。他にも、バスを降りるとき全員が「Thank you.」と言ってから降りたり、毎日同じバスに乗る人と顔見知りになって会話やアイコンタクトをしたり、私たちがお土産を選んでいたら、「sugar！」と教えてくれたりしました。中には、「どこから来たの？」と聞かれ、豊田市だと答えると英国の TOYOTA に家族が勤めているという事を話してくれたり、日本から来たということが分かると、「おはよう」や「ありがとう」と日本語を言ってくれる人がいて、感動したのと同時に、イギリスの人の温かみを感じました。

私が今回の派遣でイギリスの学生と交流して驚いたことがあります。それは、授業中に洋楽が流れていたことです。日本ではまずありえないことなので驚きましたが、生徒は歌ったりリズムを取ったりして各々楽しそうにしていて、いいなと思いました。それと、皆自分の将来の夢をしっかり持っていたことです。私は、なりたい職業がまだ明確には決まっていません。それに引き換えイギリスの学生は確実に夢に近づける専門分野を学んでいるので、夢に向かって邁進する彼らの姿は、大人びて見えました。

私は、今回の派遣で現地の人と沢山会話をすることを目標にしてきました。ですが、それは私にとっては難しいことで、もっと英語が分かれば…と思うことがいくつかありました。それは、ディベートとマナー講座の時でした。ディベートは飛行機と船のどちらがいいかといったお題でしたが、英語で答えるということが難しく、中途半端になってしまいました。その上、バディーと一対一で話したときは、質問を投げかけてくれていたのに、理解できず誤魔化してしまったこともありました。マナー講座では、サンドイッチを作る際、指示を完璧に理解できず予想で動くことや、生徒が日本の文化のことを聞こうとしてくれていたのにうまく答えきれなかったなと思うところもありました。結局、一緒に派遣に来た子と話すことが多くなってしまいました。ですが、せっかくこのような機会をいただいてイギリスに来ているのにこのままではいけないと改心し、それからはバディーと積極的に会話を試みました。私は早い英語に聞き慣れていなかったことが多々ありました。そんな自分が情けない気持ちとやるせなさが襲ってきました。そんな私を一人のバディーが「おい、English」と言って英語を話すように促してくれました。こんないい人たちに囲まれて生活していたのに、十分に会話できていなかったので、次にまたイギリスに来ることがあれば英語をもっと勉強して、今回の派遣で出会った人たちの言葉を理解できるようになり、ちゃんと会話できるようになってから来たいです。しかし、後悔ばかりでなくこの派遣は私に多くの影響をもたらしてくれました。それは、私の悩みの種の一つであった内向的な性格を少し克服出来たことです。以前の私なら、行動に移せなかったりしたこともありましたが、イギリスの人たちが私の英語を理解しようとしてくれて、自分の英語が伝わったことが大きな自信に繋がりました。

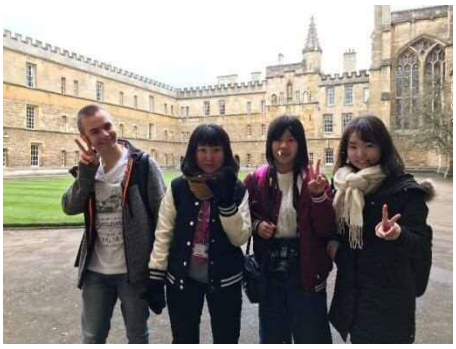
それに、親元を離れることがあまりない生活を日本で過ごしていたので、ホームステイをして、いかに自分の親に負担をかけていたかがよく分かりました。

私が海外派遣に行って一番印象に残っているのはカルチャーショーです。何をやるのか、何を伝えたいのかを一から自分たちで考えなければならず、最初はどうなることかと思いました。ですが、みんなで意見を出し合い、協力しながら完成させたカルチャーショーはとても良いものになったと思うし、ショーの時に聞こえたあの歓声は二度と忘れないと思います。当て字会では、アドリブで対応しなければならないことが多く、パニック状態になりかけましたが、臨機応変な対応をして助け合いながら行う事が出来て良かったです。

二つ目に印象に残っているのはクリエイティブ・メディア・ワークショップです。これは使わなくなった家具をきれいにデコレーションして、もう一回売れるようにすることを目的とした活動だったのですが、椅子の脚に糸を巻き付けるのと、座面と背面に花を引き付けるのが私たちの与えられた仕事でした。なかなか骨が折れる仕事で時間が掛かってしまいました。すると、他のすでに終わった班の人が集まってきてくれて、無事に完成させる事が出来ました。そういう行動を自然に出来る彼らはすごいなと思ったし、見習っていかないといけない部分だと感じました。

今回ダービーシャー高校生派遣に参加させていただき、海外に対するイメージが良い意味で大きく変わりました。さらに、活動を通して自分から積極的に動くことの大切さや協力して一つの物を完成させる達成感と喜びが分かりました。また、イギリスと日本の文化の違いをたくさん見つける事が出来ました。どちらにも良さがあるので、いいところを見習い、異文化共生社会により近づける事が出来たらいいなと思いました。

二週間はあっという間に過ぎてしまったように感じましたが、とても充実した素晴らしい時間でした。この貴重な経験を記憶に残しておくだけでなく、自分の未来に生かしていきたいと思います。このような機会をいただけたことに感謝し、派遣で出会った人達やお世話になった人達との縁を大切にしていきます。次に、イギリスに来る機会があれば、英語力や語彙力を上げてから来たいと思うし、私のホストファミリーは辛いものが大好きだったので、日本食の中で辛めのものを作って、食べてもらいたいと思います。



## 9　豊田北高等学校　　塚崎　純礼

（1）ホストファミリーの紹介

私は、Anne Brookes さんのお家に泊まらせてもらいました。
アンさんは旦那さんと娘さんがいて、旦那さんとは、仕事の都合で週末しか会うことができませんでしたが、とても紳士的で私のキャリーバックを軽く持ち上げて二階まで運んでくれるほど力持ちでびっくりしました。アンさんはとても優しい方で、私が学校から帰ってきたら笑顔で「おかえり」と言ってくれて、その日にあったことを質問してくれたり、ティーを用意してくれたり、とても思いやりのある方でした。

ディナーの後のデザートも 1 日の楽しみでもありました。ディナーが終わった後、お皿洗いのお手伝いをして、一緒にソファーで何気ない会話をしたり、テレビを見たり、音楽を聞いたりしてとても楽しい時間を過ごすことができました。私の好きな音楽を歌ったり、ずっと習ってきたクラシックバレエを披露すると、泣くほど感動してくれて、ずっと「ブラボー！」と言ってくれました。お土産に持っていった日本茶、抹茶をプレゼントすると本当に喜んでくれて、すごく嬉しかったです。

（2）派遣を終えて

私は今回の第 4 回ダービーシャー高校生派遣で素晴らしい経験を得ることができました。今回の派遣は私にとってすべてが初めてでした。イギリスへ向かう日、ホームステイ先の方と上手く過ごしていけるか、自分の英語力で現地の学生、先生方と上手くコミュニケーションがとれるかなど、不安ばかりでした。しかし、ホストファミリーの方は私たちを笑顔で迎えてくださり、これから 2 週間、悔いのないよう全力を尽くしていこうと決心しました。

現地に着いて初日、私は BSDC に行きました。大学に入った時、大学の広さやセキュリティーの完備、カフェテリアなどを目の当たりにして、設備の整った大学だと思いました。そして、BSDC の学生と対面して話した時は、何を話しているのかわからなくても、バディーは私たちに優しくジェスチャーや携帯を使って自己紹介、好きな動物、最近はまっているものなどをたくさん話してくれました。その時私はここに来るまでの

不安が少しずつ消えていき、前向きな気持ちになっていくのを感じると同時に、自分も積極的にバディーや先生方とコミュニケーションをとっていくべきだと思いました。

2 日目、豊田市の派遣団全員とバディーが対面しました。一緒に自己紹介ゲームをしたり、学校内を案内したりしてもらいました。大学の中にはたくさんの本が並べられてある図書館があったり、コンピュータを使って学生が勉強していたりと、活気溢れる様子を肌で感じました。

3 日目は、英語講座を受けさせてもらいました。講座を担当する先生は、私たちに「日本人は文法の勉強に力を入れて、実際に英語を使ったコミュニケーションをとる機会が少ない」と言い、私は先生の言葉に納得しました。

なぜなら、現地について少し話す時でさえ、いつもなら分かる単語が出てこなくなり、英語でのコミュニケーション不足を強く感じたからです。ですから、その日の授業から、話すときの笑顔や相づちをたくさんして、会話としてのコミュニケーションをたくさんとることを心がけました。

4 日目、生まれて初めてイギリスの本番のアフターヌーンティーを作る過程から体験させてもらいました。BSDC で料理を学んでいる学生が作り方を優しく教えてくれて、私はスコーンを作ったのですが、こんなにもスコーンが手際よく短時間でできるなんてすごいなあと、一緒に作ってくれるバディーに感心してしまいました。お皿の配置や紅茶の種類の豊富さやカップの持ち方など、アフターヌーンティーについてさまざまなことを学ぶことができた 1 日でもあり、料理の美味しさで幸せいっぱいな 1 日でもありました。

5 日目、英国トヨタ自動車の訪問をしました。そこでは、まず私たちのためにクッキー、紅茶、ジュース、昼の時間では、サンドウィッチ、フルーツ、ポテトなどを用意してくださり、トヨタ自動車のおもてなしの心に感動しました。

工場見学では、イギリスでトヨタブランドで売られている車について説明してくださったり、実際に車が製造されていく様子を見学させてもらい、非常に素晴らしい経験をすることができたと心から思いました。

6 日目、オックスフォード大学に行きました。

大学の中の見学の前に、外を歩いているだけでも景観の美しさに見惚れてしましました。オックスフォード大学の見学では、敷地の広さや、ハリーポッターで出てくる場面を実際に目で見て、すべてのものに感動してしまいました。

7 日目、何人かの生徒とダービーでショッピングに行きました。本場のフィッシュアンドチップスは本当に美味しくて、揚げたてで、毎日食べたくなるほどでした。

8 日目、リッチフィールドで大聖堂に行きました。

私の家庭は仏教なので教会に行くのも初めてで、聖書を見るのも初めてでしたが、あの神秘的な空間に歴史を感じました。また、教科書やテレビに出てくるあのダーウィンの家を見学しました。実際に、世界に変化をもたらしたダーウィンが生まれた場所にいる

と思うと、タイムスリップした気分になり、バディーと一緒にダーウィンの部屋や研究の様子を楽しく見学しました。

9 日目、BSDC で古いイスやキャリーバックなどをアレンジするという授業を受けました。この授業によって、古いからといって捨てるのではなく、少しのアイデアで私たちの環境は守っていくことができるのだと思い、このような取り組みをこれからもしていきたいと思いました。

10 日目、ミニオリンピックを行いました。
バディーたちと一緒に卓球、バトミントン、サッカーをしました。一緒に励ましあい、チーム一丸となってプレイしたことは、より絆が深まるきっかけにもなり、楽しい思い出になりました。

11 日目、カルチャーショーの日でした。
日本の花道、茶道、書道パフォーマンス、当て字会など、派遣前から準備してきたことを存分に発揮することができたと思います。
ホストファミリーやトヨタ自動車の方、議長の方など、様々な方の喜んだ顔を見られたことは私にとって本当に素晴らしい経験となりました。

最後に、この派遣は私にとって自分の将来を決める素晴らしい経験となりました。そして、これからも豊田市とダービーシャーの絆を深めていくことができるよう、何か自分にできることがあれば積極的に取り組んでいきたいと思います。 また、自分の英語力を伸ばして、豊田市、そしてさまざまな人の役に立てる人になり、今回の派遣の恩返しをしていきたいと思いました。

## 10　豊田南高等学校　　野々山　音生

（1）ホストファミリーの紹介

僕のホストファミリーの名前はダイアナで、大学から徒歩 15 分の場所にある家で一人暮らしをしています。日曜日以外仕事でほとんど出かけているので、夜は話をする貴重な時間でした。その日何があってどう思ったかや、家族の話、日本での英語教育、お互いの文化の話をしました。

ある日ダイアナと 14 歳の甥のジェイデンとボーリングに行ったときは、学校では何

が流行っているか、好きな曲、日本の話をしました。彼は 14 歳ですが、見た目は若干大人な雰囲気でした。彼の父オーラルとも少しだけ話をしました。

ダイアナは音楽が大好きで、家ではいつも音楽をかけていました。僕は少し古い曲が好きなので、滞在中買った CD を流すと「これ知ってる！」と盛り上がりました。彼女の家にはたくさん CD が置いてあり、「好きに聴いていいよ。」と言ってくれたり、僕が部屋で聴けるようにラジオを用意してくれたりと、とても親切にしてもらいました。そのほかにも、初日にプレゼントをくれたり、僕が食べてみたいと言っていたお菓子を買ってくれたり、日本語で話してくれたりしました。

ダイアナはいつも笑って楽しそうにしていて、そのおかげか僕は滞在中にあまり不安を感じませんでした。帰国が近づくと、何度も"I'll miss you, stay in touch."と言ってくれました。ここには書ききれない親切に感謝し、いつかまたダイアナとの楽しい時間を過ごせる日が来ることを願っています。

（２）派遣を終えて

はじめに、生活面において気づいたこと、驚いたことについて書こうと思います。

僕は以前まで土足が一般的なのはアメリカだけだと思っていましたが、イギリスでも土足が多かったので驚きました。雨が多く、汚れや泥が付きやすいから靴は脱いだほうがいいんじゃないかなと思いました。また、家でも学校の厨房でも、食器をあまりきれいにしていなかったので、イギリスではあまり清潔にすることに気を使わないのかなと思いました。ほかにも、日本人にとってはアウトな行為が、イギリスでは普通のことのように行われています。例えば信号無視です。少なくとも僕の見た限りでは信号があっても車がいなければみんな渡っていました。日本では、多くの人は車が全くいなくてもしっかり信号を待つ人が多いです。僕は待つことが大嫌いなので、信号無視は自己責任で可能、というのがとても気持ちよかったです。

食事においてもまた日本と違うなと感じました。飲食店は例外かもしれませんが、日本の食卓では、出されたものはそのまま食べるのが普通というか、それが礼儀という風潮があるような気がしますが、イギリスでは塩などを置いておくから自分で好きな味にしてね、というスタイルでした。そもそも、日本では味付けが細かいというか、ほどよく感じますが、イギリスでの食事は味付けにあまりこだわっていないようでした。イギリスの料理はまずいと言われていますが、そこまでではありません。しかし、聞いていたよりは良いけど、美味しい！とまでは思いませんでした。

イギリスのシャワーは日本よりだいぶ水圧が弱く、初日にかなり驚きました。じょうろから出るくらいの水圧で、体を洗い流すのも楽ではありませんでした。僕の滞在先だけかなと思っていたら、他の生徒も引率の先生も同じことを思っていて面白かったです。

次に、言語、文化、その他感じたことについて書きます。

僕は、この派遣の一年前にアメリカに同じく二週間ホームステイしたことがあったのであまり不安はありませんでしたが、唯一不安だったことが、リスニングでした。学校で文法はある程度勉強していたし、自分で話す練習はいくらでもできたので、英語で自分の気持ちを伝えることはそう難しくありませんが、リスニングはどうしても中々上達しません。学校の授業では ALT の先生が来ることはほとんどないし、リスニングはテスト前以外は準備されないし、頼れるのは外国人のユーチューブか週一回の英会話だけです。ですがアメリカに行った時も今回も、現地の人は日本で対策していたよりももっと話すのが早かったです。引率の先生は、現地のスタッフや生徒の言うことを正確に聞き取っていたので、僕もいつか一語一語ちゃんと聞きとれるようになれたらなと思いました。それと同時に、日本の英語教育に疑問も覚えました。日本人には英語で話すことをためらっている生徒が多いと思います。しかし、それはその人自身のせいだけでなく、教育制度のせいでもあると思います。ほとんど座学で、実際に英語を使う機会は用意されていないのに、使える英語が身につくと思っているのか、僕にはわかりません。リスニングが苦手とはいえ、僕は今回、自ら積極的に話しかけ、わからないままうなずかずに聞き返そうと決めていたので、いろいろなことを知ることができました。僕が英語で質問したことへの返事が英語で返ってくることが、自分の英語はちゃんと伝わっているんだなと実感させてくれてとても楽しかったです。

そんな中、僕が彼ら自身のことについて質問すると、ちゃんとした答えが割とすぐに返ってきます。ですが、日本人の多くの人が、意見を求められたり決断を迫られたりしたとき、もじもじしているように思います。わからなくても、わからないとか、考える時間がほしいとか、そういうことも相手に伝えません。日本でずっと育ってきたから誰が悪いということではないけれど、今日からでも改善できることだから気を付けたいと思いました。

今はインターネットで何でも調べれば他の国々のことはある程度知られるけど、それは表面的なことです。僕が知りたい、得たいと思うものは、その国のライフスタイルに身を置き生活することで気づくことのできる些細でも価値のある日常や、その国の人々が持っている僕とは違った考えやものの見方です。それらは僕に、ここではこんな生活をしているんだ、そういう考え方もあるんだ、と気づかせてくれます。これを繰り返せば、物事を日本人としての一点からだけでなく、いろんな観点から捉えることができ、ただ観光するときにも、その国の人と交流できたら更に有意義になると思いませんか。ですから僕はこれからも英語を勉強したいと思います。今回の派遣は二週間とはいえ、まさに、僕にイギリスから物事を見る力を与えてくれたと思います。ありがとうございました。

## 11　豊田高等学校　　藤井　彩香

（1）ホストファミリーの紹介

家族構成：母 Rebecca（37）息子 Johnny（10）

私のホームステイ先は Lewis 家で、過去 2 回学生を受け入れたことがある家庭でした。今回、私はこの家庭にホームステイができたことにとても感謝しています。

お母さんの Rebecca はとても優しく、毎日私を家で見送り出迎えてくれました。毎晩、私はその日あった出来事を聞いてもらいながら Rebecca に作っていただいたおいしいイギリス料理をいただきました。たくさんお菓子を買ってきた日には「たくさん買ってきたわね。」と一緒に笑い、時にはおいしいイギリスのお菓子や紅茶を教えていただくこともありました。Rebecca の優しさを感じる出来事の 1 つとして、初日に Rebecca から「一緒にジクソーパズルやらない？」と持ちかけてくださり、「完成できなかったら日本へ帰れないわよ！」と冗談を言って、緊張していた私の気持ちを和らげてくれました。そんな Rebecca の優しさがとても嬉しかったです。

息子の Johnny は地元の小学校に通うとてもかわいい男の子です。日本のポケモンが大好きで、私がお土産に持っていったポケモングッズをとても喜んでくれました。日本のお菓子も「Nice!」と言いながら毎日大切に食べてくれました。一緒に Johnny の部屋でテレビゲームをしたり動画を見たりして、楽しく過ごすことができました。私が日本へ帰る 2 日前に School trip に出掛けてしまい、最終日まで一緒に過ごすことができなかったけど、最後まで私のことを気遣ってくれる Johnny の優しさがとても嬉しかったです。

このような素敵なホストファミリーに恵まれたおかげで 2 週間ものホームステイ中、一度も寂しさや不安もなく過ごすことができたことに心から感謝します。

（２）派遣を終えて

待ちに待った派遣でした。2 週間のホームステイに不安もありましたが、イギリスへの期待でワクワクする気持ちの方が大きかったです。出発までに複数回ある難しそうな事前研修、長期日程の旅の準備、初めて会った仲間たち･･･不安なことはたくさんありましたが、研修を重ねるごとに不安は小さくなり、仲間たちみんなの心が一つになってきたことを実感しました。

ダービーシャーに到着し、BSDC でホストファミリーと初対面！私の心臓は緊張でドキドキだったことを今でも覚えています。私のホストマザーの Rebecca はいつも私のつたない英会話を一生懸命聞いて理解しようとしてくれました。しかし、時々お互いの会話を理解できなくて大変な思いをしたこともありました。そんな時に電子辞書やインターネット検索などを使い、英単語の意味を調べ、Rebecca の言葉を理解できたときはとても嬉しかったです。Rebecca も私が理解できなかった英単語を調べて、日本語で伝えてくれたこともありました。今までの勉強で学んだ私の持っている英語力すべてを使う Rebecca との英会話は疲れや緊張がある一方で、自分の英語力のレベルの確認になりとても貴重な体験になりました。毎晩夕食時にする Rebecca との英会話が楽しみで、毎日学校から家に帰るのが楽しみになりました。Rebecca は BSDC の職員なので、学校で見かけた時は「Hi! Beckie!」 「Hi! Ayaka!」と声を掛け合うことができて嬉しかったです。（Rebecca は BSDC では Beckie と呼ばれています）Rebecca との思い出の中で嬉しかったことは数多くありますが、中でも BSDC で過ごす最終日に行われたカルチャーショー終了後に開催された立食パーティーで、Rebecca が BSDC の職員の人と談話中、私のことを自分の子供を紹介するかのように相手に話しているのを横で聞いて、2 週間という短い期間だったけど私にとって Rebecca はイギリスのお母さんだったんだなぁと思い、心がジーンとしました。Rebecca の息子 Johnny は私のかわいい弟でした。Johnny の部屋には日本のポケモングッズが山のようにあり、その中に私がお土産で持っていったポケモンを見つけた時は嬉しかったです。一緒にゲームをしたり、動画を見たり、私の横で楽しそうにしている Johnny が本当の弟に思えました。Rebecca と Johnny は私のイギリスの家族です。

今回の派遣では 7 人の BSDC に通う生徒がバディとして参加してくれました。初めは緊張してなかなか声を掛けられなかった私たちに、積極的に声をかけてくれました。BSDC に通う生徒がいつも私たちのことを気にかけて英語で話す機会を作ってくれたので、すぐに友達として仲を深めることができました。オックスフォード日帰りツアー、リッチフィールド日帰りツアーでも一緒に行動し、班に分かれて活動しました。各班にバディが一人付いてくれて、私たちの自由奔放な行動に合わせくれました。スポーツ・レクリエーションでもグループ分けをし、各グループにバディ、Ann や Stephanie も参加して下さいました。バディたちと一緒にフットボール、卓球やバトミントンなどをしながら会話する機会が数多くあり、より親交を深めることができました。同じグルー

プのバディの Patryk が試合中、私のことを「Ayaka!」と何度も呼んでくれて、些細なことにも嬉しさがこみあげてきたことを今でも覚えています。フットボールの試合中、相手のボールが Patryk の眼鏡に当たって壊れてしまう事件がありました。私はとっさに何と声をかけてあげればいいのだろう？とおどおどしていたら、Patryk は「It's O.K」と自分のことより先に私たちを気遣ってくれる本当に優しい男の子でした。スポーツは万国共通です。英語が相手に伝わらないことがあっても、心配する気持ちはスポーツを通して伝わっていることを実感しました。仲良くなったバディたちはどんな時でもどんな場所でも本当に私たちを優しく気遣ってくれたのです。まるで年上のお兄さん、お姉さんのようで、私と同じ 17 歳には見えず、とてもしっかりとしていました。私は、彼や彼女の優しさを見習いたいと思いました。

最後に、私はこのような貴重な体験ができた派遣に参加でき、本当によかったと感謝しています。日本では絶対に味わうことのできない英語だけの生活を 2 週間も体験でき、そして BSDC の生徒さんとも仲良くなることができました。ホームステイ先の Lewis ファミリーは最後の最後まで私を見送って下さり、別れるのが名残惜しかったです。Rebecca の姿を見て、私は「絶対にまた Rebecca に会うためにイギリスを訪れたい！」と心の中で誓いました。この派遣のおかげで自分の英語力を確かめることができたので、今よりも流暢に会話ができるように英語力を上げるため勉強に励み、またイギリスを訪れたいです。

## 12　豊野高等学校　　岡田　明弥

（１）ホストファミリーの紹介

今回の海外派遣では、Monica 家に大変お世話になりました。

彼女の英語のアクセントには訛りがあり、最初はコミュニケーションをうまく取れませんでしたが、二日ほど経つと耳も慣れていき、たくさんの会話をできるようになりました。

彼女はとても優しい人で、不安を抱えていた自分に対して「悩んでいたら何でも聞くよ！」と言ってくれたので心の底から安心しました。

学校帰りに買ってきた服やアクセサリーを見せると“lovely”と褒めてくれて、また食事中には、日本とイギリスの食文化の違いやライフスタイルなどについてたくさん話

してすごく盛り上がりました。

次の日、学校が終わった後、僕は急いで家に帰りました。彼女が近所のスーパーマーケットへ連れて行ってくれるからです。スーパーに着いてから僕が British super market の細かいところにまで感動していると、彼女は笑っていました。

翌週の日曜日は仕事で留守になるということで、一緒に過ごすことはできませんでしたが、夜にとてもオシャレなレストランへ連れていってくれました。

一緒に過ごせる最後の日に行われた立食パーティーでは、そこで出会った他のホストファミリーに「He is a very charming character！」と紹介してくれて、若干の照れくささもありましたが、すごく嬉しかったです。

家を出るときに「see you again」と言って別れた時の彼女の笑みを見て、ここに滞在できてよかったと改めて思いました。もう一度会いに行きたいです。

～派遣を終えて～

二週間というとても短く感じる期間ではありましたが、僕は現地でたくさんのことを学び、たくさんの経験をしました。

また、イギリスの人と関わることによって、新しい考え方や、価値観も発見することができました。出会った方達には、本当に感謝しています。

イギリスに来て感銘を受けたことがあります。それは「優しさ」です。渡航するまでは楽しみの裏腹に不安もありました。ホストファミリーや現地の学生とコミュニケーションをとることが自分にできるのかということについてです。英語をそこまで流暢に話すことができないことも含めて。

しかし、いい意味で裏切られました。ホストファミリーの温かさ、たくさんの話をして一緒に大切な思い出を作ったバディ、出会ったバスの運転手さんやプライマークの店員さん、困ったときに手を貸してくれた一般の方々、すべての人の優しさに本当に感動しました。

僕は小心者で、何をするにしても周りの動きに合わせる。無理な要望にも「はい。」としか言えない。身近な人からの信頼感にも気づくことができません。そんな自分が本当に嫌いでした。そんな時にダービーシャー高校生派遣の概要を目にしました。無論、最初は勇気がなかったです。二週間も外国で暮らすなんて無理だ、と。しかし、そこで躊躇していたら何も風が吹かないと思ったので参加を希望しました。合格してからのガイダンスや、回数を重ねていく語学研修、共に参加した仲間たちのおかげで次第に勇気が湧いてきました。

イギリスでの生活が始まってから二週間、日々の生活が濃密で、本当に楽しくて、たくさん笑うことができました。気づいたらすでに１週間が経過しており「こんな日がず

っと続けばいいのに」と何度も思いました。しかし、2 週間は光の速さで過ぎていき、最後の夜のカルチャーショーの準備をしていました。カルチャーショーの最後に１人ずつスピーチをしました。僕はそこで今までの感謝の気持ちを話しました。途中、寂しさのあまり涙が出てきてしまったのですが、立食パーティーにて、バディ達に勇気づけてもらいハッピーエンドで幕を閉じることができました。

そんなこんなで終了した海外派遣。生まれて初めての海外ということもあってなのか、現在も余韻があります。改めて、ホストファミリー、バディ、一緒に過ごした仲間、出会ったすべての人たちに出会うことができて幸せです。限られた時間の中、日本では感じることのできない風を肌で感じることができました。思い残すことは何もありません。この経験を糧にして、学校での生活、勉強、日々の私生活など様々な面において頑張っていこうと思います。

## 13　杜若高等学校　　中村　駿伸

～ホストファミリー紹介～

今回の海外派遣で私が滞在したホストファミリーの名前はDianneという音楽がとても大好きな人でした。彼女の家は常に音楽が流れていて明るい感じでした。初めて会った時に、初の海外で緊張していた私に対してとてもやさしい声で「Don't worry」と声をかけてくれました。その一言で徐々に緊張がほぐれ、楽しく会話をしていくことができました。会話の中の話題も音楽系のものが多く、お勧めの洋楽やクラシック音楽についても話をしました。休みの日は近くの花園や名所を案内してくれました。Dianneが実際に行っている教会にも連れて行ってくれて紹介をしてくれました。パブリック・ハウスというカフェのようなところに連れて行ってくれて、温かい飲み物を飲ませてくれました。とてもいい雰囲気でとても気に入ったら、２回も連れて行ってくれました。Dianneはとても優しく常に明るく接してくれました。日本語で「おはよ～。」、「元気～？」と毎朝声をかけてくれたことがとてもうれしかったです。お店で買った服を見せたら「Look so smart!」と言って沢山ほめてくれたことがとてもうれしかったです。イギリスの文化や歴史、街並みやイギリス人の人柄についても教えてくれました。朝は早くから仕事に出かけて行ってしまったのであまり会話はできなかったのですが、夜はテレ

ビを見ながら沢山会話をしました。自分のことや日本のことについて話しました。派遣生活最後の日には手作りの朝ご飯を作ってくれました。とても美味しかったです。朝早くから準備してくださったことに感謝しています。緊張や不安でいっぱいだった私を温かい言葉で励ましてくれた Dianne に心から感謝しています。

～派遣を終えて～

今回の海外派遣が私にとって初めての海外でした。そのせいか、初日からずっと緊張をしていてあまり会話ができませんでした。しかし、緊張がほぐれると沢山会話ができました。自分の話す言葉が相手に伝わったときはとても感激しました。会話は趣味や興味を持っていることや将来についてのものが多く、とても楽しい会話ができました。これもいい思い出になりました。BSDC の生徒はとても大人びて見えて、同じ年齢とは思えないほどでした。これは、生徒自身で決めた専門カリキュラムを専攻して、すでに勉強をしている段階にあることが理由の一つではないかと思います。BSDC の生徒たちはみんなフレンドリーに接してくれて沢山話しかけてくれました。沢山話をしていくうちにとても仲良くなり、学校の周りにあるお勧めのお店やレストランを教えてくれました。学校が終わって早速行ってみると、そのお店はとても盛況で、たくさんお客さんがいて店内の雰囲気も良く、品物もどれも魅惑的なものばかりで目移りしてしまいました。店員さんやウェイターさんもとても親切に対応してくれて、みんな優しい人だなぁと印象付けられました。生徒さんやバディはとても親切で、ゆっくり話してくれて、ジェスチャーを使って伝えようとしてくれて、とても理解しやすく、会話をしていて支障も特になく楽しく話すことができました。こちらから話しかけても真剣に話を聞いてくれて、とてもうれしかったです。はじめのほうは小さな声でモジモジ話していましたが、日にちがたつにつれてだんだんと声も大きくなり、自分の意志がうまく伝えられるようになったときはとてもうれしかったです。バディが日本語を教えてほしいと言ってきて、日常で使われるようなものはすでに知っていたので「若者言葉」を教えてそれを英語で説明して、その意味に近い英語も教えてもらい、さっそく使って盛り上がりました。面白いことを言って私たちを笑わせてくれました。学校での授業はとても楽しく、英会話の基礎の勉強や BSDC の生徒と混じってディベートをしました。ディベートはグループ

ごとに主題に沿って賛成派と反対派に分かれて討論をしました。日本の学校でも授業でディベートをしたことがあり、流れはつかんでいたのでやり方はわかっていましたが、英語ではやはり難しかったです。相手チームからの反駁に対する意見も考えながら自分のグループで討論をしていたので、沢山英語を使うことができました。

## 14　豊田大谷高等学校　　雪野　愛華

（１）ホストファミリーの紹介

私が 3 月 11 日から 3 月 24 日までの 2 週間、ホストファミリーとしてお世話になったのは、Aqeeda Shah さんと Mansoor さんの家です。この家は Shah さんと Mansoor さんの 2 人で暮らしていますが、週末になると息子さんの家族が集まり夕食を一緒に食べるそうです。Shah さんたちはもともとパキスタンに住んでおり、イギリスに移住してきたそうです。Shah さんは現在、自宅で近所の子供たちに言語を教えています。また、この家はいろいろな国の人をホストファミリーとして受け入れており、今までに 5 カ国以上の国の人がホームステイしています。部屋は全部で 4 つあり、そのうちの 1 つがゲストルームとして使われていて、とても広くて過ごしやすかったです。食べ物は、ホームステイが始まって 1 日目、2 日目はイギリス料理ではなく、パキスタン系の料理でとても辛くて食べることができませんでした。しかし、辛いものが食べられないことを伝えると、日を重ねるごとに食べられる物を用意してくださり、最終日前日にはフィッシュ＆チップスを食べに連れて行ってくれました。Shah さんは、とても心配症で私たちのことをとても気にかけてくれました。こんなにも素晴らしいホームステイができたのは、Shah さんのおかげであると思っています。心から感謝しています。

（２）派遣を終えて

私は、3 月 11 日から 3 月 24 日までの 2 週間、イギリスのダービーシャーに豊田大谷高校の代表として行ってきました。このイギリス派遣研修の中で特に楽しかったと感じたことがたくさんあります。15 日に、「イギリス料理講座」を受けました。ＢＳＤＣのレストランのホールの人とペアで作業をし、私はサンドウィッチを担当することになりました。ペアの人が何をするのか優しく教えてくれるのですが、話すのが早いのと、

発音が良すぎて聞き取るのが難しかったですが、身振り手振りで教えて下さったので、すぐに理解することができました。作り終わった後は、レストランのテーブルクロスの引き方やナプキンの折り方などを教えて頂きました。これは日本でもやることなので、知ることができて良かったと思いました。休憩には、イングリッシュティーとアフタヌーンティーを飲ませていただきました。イギリスの人は紅茶を好んでいるので、紅茶について詳しく教えて頂けて嬉しかったです。１６日には、英国トヨタ自動車を訪問しました。普段入ることのできないところへ特別に許可をいただいて入ることができ、どのようにして車を作っているのか自分の目で確かめることができました。ここではたくさんの機械があり、ほとんど機械の力で車が出来ていました。また、ソーラーパネルがたくさんあり、光の力も利用していると知ることが出来ました。1 日に約 600 台作られると聞いて毎日忙しいと思ったし、すごい量だなと思いました。英国トヨタ自動車には日本人の方が１０人ほどいて、会社の中をわかりやすく教えてくれました。とても貴重な見学ができて良かったです。１７日には、オックスフォード大学でいろいろなところを見学しました。バディの人と派遣団でグループを作り、優しく教えてくれました。この日は雪が降っておりとても寒い日になりましたが、みんな寒さ対策をしていたのでしっかりと見学することが出来ました。ハリーポッターの映画の撮影場所を見ることができて、とてもうれしかったです。21 日はミニオリンピックをやりました。バディの人と私たち派遣団が均等に 5 つのチームに分かれてフットボール、卓球、バドミントン、アスレチックの 4 種目をやりました。バドミントンでは、コートを 2 人で左右で分担をしてプレイする作戦をしていたペアがいたり、前後で分担をしてプレイをする作戦をしていたペアがいたりなど各ペアによって作戦が違って工夫してやることができていて、楽しむことが出来ていたと思います。お昼休みには、バディの人たちと一緒に食べて日本のことやバディの人たちの休みの日の過ごし方について話したり、テニスをやらせていただきました。バディの人たちといろいろなスポーツをすることができて、とても楽しかったです。このミニオリンピックをしたことによってバディの人と私たち派遣団の仲がこれまで以上に深まったと感じました。また、私たち派遣団も語学勉強のときよりもはるかに仲が深まり、一人一人の個性も見られるようになりとても良いメンバーに出会うことができたと思いました。22 日はカルチャーショーをやりました。日本の茶道・華道について動画や画像を使って説明しました。また、代表生徒 2 人が書道のパフォーマンスをして会場が盛り上がりました。また、夕食会では、あるホストファミリーの人が「静かにして」と言ったので、何が始まるかと思ったら、派遣団の生徒が日本の歌を歌い、会場を盛り上げてくれました。あの時の拍手の大きさやみんなの笑顔は今でも覚えています。私はこの 2 週間で大きく成長出来たと感じています。語学の勉強をしているときは教えて下さる先生の言っていることが理解できず、本当に大丈夫か不安でいっぱいでしたが、イギリスの方はとても親切な人が多く、私が困っていると易しい英語で会話をすることが出来たし、道がわからないと一緒についてきて教えてくれまし

た。今回イギリスで学んだことは私の一生の宝物です。このイギリスでの生活を忘れずに、これからの人生、生活に生かしていけるようにしたいです。また機会があればイギリスに行ってバディの人たちに会いたいです。

## 15　南山国際高等学校　　板谷　咲紀

（１）ホストファミリーの紹介

私は今回 Fitzpatrick 家にお世話になりました。父の Paul、母の Fay、養子である９歳の Lauren と７歳の Riley の４人家族でした。とても可愛く人懐っこいチワワの Charlie もいました。今回は残念ながら会うことはできませんでしたが、他にも既に自立した３人の息子がいるそうです。最初に BSDC に到着したとき、夜遅くだったにもかかわらず家族全員で迎えに来てくれて、私のことを温かく迎え入れてくれました。Paul はいつも私にジョークを言って笑わせてくれて、Fay はイギリスについていろいろなことを話してくれたり、子供たちもとても人懐っこく、「いつも学校で何をしているの？」「イギリスのどこが好き？」などたくさん話しかけてくれたりしました。

Paul は TOYOTA U.K.に勤めていて毎日とても忙しく、いつも朝早く出勤していたので朝は会えませんでしたが、毎朝ご飯を食べながら Fay と学校の話や子供たちの話などをしました。Fay は以前シェフだったそうで、ご飯が本当に美味しかったです。私が Fay の料理に感激していると、「何でも作ることができるから食べたいものがあったらいつでも言ってね。」と言ってくれました。子供たちも「お母さんの料理が大好きなんだ！」と私に笑顔で話してくれました。学校から帰ってきて、ご飯を食べた後は毎日子供たちのプレイルームでテレビを見たり、おしゃべりしたりしました。私には兄弟姉妹がいないので、Lauren と Riley がまるで自分の妹と弟になったみたいで嬉しかったです。

家族全員がいつも私のことを気にかけてくれる、本当に優しい家族です。私はこのような素敵な家族に受け入れていただけて嬉しく思います。Fitzpatrick 家のおかげで本当に最高な２週間が過ごせました。ありがとうございました。

（２）２週間のイギリス生活

今回のダービーシャー派遣は、わたしの将来にとって本当に貴重な経験でした。私は将来、国際関係の仕事をしたいと思っているので、それには英語が必要不可欠です。しかし、外国人と直接会話し、日常生活を共にすることは日本ではできないことです。ですから、今回実際に外国へ行き、自分の英語力を試すことができてよかったです。ホストファミリーやバディとの会話やコミュニケーションにおいても、自分の英語が伝わったことは純粋に嬉しかったですが、同時に、まだまだ改善・努力が必要だと思う部分も発見できました。様々な点で新しい発見があった２週間でした。

初めは、派遣団のみんなと仲良くなれるかどうかわからず、初めての語学研修前は不安でいっぱいでした。しかし、とても明るく、楽しいメンバーで安心しました。もちろん初めはお互い緊張していましたが、２週間に１回の語学研修で会うたびに仲良くなっていくのを感じました。カルチャーショーの準備の際も、みんなで話し合い、協力して進め、結果、大成功に終わりました。バディたちと過ごす学校生活も楽しく、とても有意義な時間でしたが、派遣団のみんなが一緒にいてくれたおかげでもっと楽しい時間になりました。朝学校に行く前に、近くのショッピングモールで派遣団のみんなと買い物したり、一緒におしゃべりして爆笑したり、そんな時間もとても楽しかったです。このメンバーでよかったと心から思いました。みんなと一緒にイギリスに行けて本当に良かったです。

初めて親元を２週間も離れ、英語だけで生活することに対して、最初は緊張、不安でいっぱいでした。ですが、優しいホストファミリー、バディ、先生たち、BSDC の生徒たちのおかげでそんな気持ちはすぐに無くなりました。比較的内気である日本人とは対照的で、みんなが積極的で、日本との違いを感じました。積極的、というのは留学生の私たちに対してだけではなく、授業態度や先生への態度、課題、勉強への態度すべてが積極的でした。BSDC の生徒はみんながしっかりしていて、とても大人びていて、同じ年でもなんだか年上に感じました。また、学校内だけでなく、お店や道などでも話しかけてくる人が多いなということも感じました。私はバス通学だったのですが、バスの中で目が合うとにっこり微笑んでくれたり、「どこから来ているの？学生さん？」とご老人から私と同じ年くらいの学生まで色々な人が話しかけてくれたりしました。おかげで日本に帰ってきた今でも、人と目が合うと微笑んでしまう癖がついてしまいました。

バディたちも本当に良くしてくれて、どんな質問にも答えてくれて、イギリスでの学生生活についての話をしてくれたりなど、国際関係・国際的なコミュニケーションに興味がある私にとってとても有意義な時間となりました。ホストファミリーや先生たちとは出来ない、学生ならではの話などもすることができて、楽しかったです。いつかバディたちが日本に来たときは、彼らが私たちにしてくれたように、私も彼らに日本のいいところをたくさん紹介して、日本にもっと興味を持ってもらいたいです。

ホストファミリーである Fitzpatrick 家は本当に温かく、優しい家族でした。イギリ

スに着いた日には、全員で迎えに来てくれて、日本についてや、私の普段の生活についてなど、興味津々に質問してくれました。また、毎日「今日の学校はどうだった？何をしたの？」と気にかけてくれました。リラックスして過ごせる家庭で、緊張でいっぱいだった私はすぐにどこかへ消えてしまいました。日曜日のホストファミリーと過ごす日には、なんとロンドンまで連れて行ってくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。過去に何回か日本からの留学生を受け入れているそうで、留学の際のアドバイス等もたくさんくれました。私のこの最高な２週間はこの Fitzpatrick 家の皆さんのおかげです。帰る直前には、メッセージカードやイギリスのお菓子や紅茶などもプレゼントしていただき、「これを見て私たち家族とイギリスを思い出してね。」と言ってくれました。Lauren と Riley も「帰らないで！」「私たちも日本に行きたい！」と言ってくれて、離れるのが本当に寂しかったです。本当に素敵なご家庭にホームステイさせて頂けたなとしみじみ思いました。いつか私が日本を案内してあげられる日が来ることを願っています。

イギリスで過ごしたこの２週間は、本当にかけがえのない素晴らしい思い出、経験となりました。いつかまた自分の英語力をもっと向上させてから、もう１度イギリスへ行きたいです。この派遣に参加させてくれた自分の両親、またサポートしてくれた引率の先生、市役所の方々、派遣団のみんな、現地の方々に本当に感謝しています。この思い出は一生忘れません。素晴らしい２週間をありがとうございました！

**引率教諭　豊田西高等学校　　石川　和代**

「実際に経験することの大切さ」

いろいろな情報が日本にいながらにして手に入りますが、その場所に実際に行き、経験しないと分からないことは多くあります。今回の研修に参加した生徒たちが、知識だけで満足することなく、実際に経験することの大切さを、特に次の４点から数多く学べたことと思います。

（１）BSDC（カレッジ）

まずは、スタッフやバディの献身的なサポートです。バディ達は参加生徒と同年代で、課題に追われながらも、多くの時間を割いて私達に同伴してくれました。「大変ではな

いの？」と尋ねると、「楽しいから」「好きだから」と笑顔で答えてくれました。彼らにとっては、ごく当たり前のことのようです。また、旅行に関する英語でのディベート、料理やマナー講習、スポーツ、アートといった様々な活動にも、各専攻のカレッジの学生達と一緒に取り組む機会を得られたことも大変意義あることだと思います。

（２）オックスフォード(Oxford)、リッチフィールド(Lichfield)への日帰り旅行

「オックスフォード大学」という名前は聞いたことはありますが、実際に New College の中を散策したり、図書館や美術館も見学する機会を得ました。日本の学校で得た知識のおかげで、展示物に対して一層の理解を深めることができたと思います。またオックスフォード全体の街並みも美しく、街を散策しながら、気品と伝統、そして誇りを強く感じることができました。別の日に行った「リッチフィールド大聖堂」は想像以上に大きく、まさに「荘厳」「圧巻」でした。建物の持つ圧倒的存在感に打ちのめされた気がします。しかし圧倒されながらも、日本にある数多くの伝統的建造物を思い浮かべ、日本人としての誇りを感じた瞬間でもありました。

（３）トヨタ現地工場見学

現地工場の寺本氏から”Change yourself”、浅井氏から「自分から行動を起こさないと何も変わらない」など、ご自身の経験に基づく、重みのある言葉をいただきました。現地で活躍される日本人の姿、現地工場見学、環境に対する取り組みなどを通し、改めて「日本人としての誇り」を意識し、「豊田市の代表であること」の意識が高まったことと思います。

（４）ホームステイ

多様な背景を持つ方々が私達をご家庭に滞在させてくれました。ナイジェリア、パキスタン、ジャマイカなど多岐に渡ります。床やドアのきしみ、シャワーの水圧、食習慣、放映されるテレビ番組など、そこに暮らす人々とっては、何ということのない当たり前の日常の中に、数えきれないほどの相違点や共通点を見出すことができました。実際に各家庭に滞在することでしか得られない貴重な経験です。また、見知らぬ人を自宅に泊めさせ、時には家の鍵まで貸し出してくれたイギリスの方々に懐の深さを垣間見ました。

最終日に、参加生徒による”Culture Day”として書道パフォーマンスを行いました。日本では大枠のみで、詳細は現地でつめることになりましたが、研修に関わった数多くの人達に感謝の意を伝えたいという思いと、豊田市の代表生徒としてより良いものを見せたいというプライドから、必死に準備に取り組む姿は大変印象的でした。今回の研修で大きく成長した彼らの今後の活躍に期待したいと思います。

**引率教諭　豊田北高等学校　　臼井　雅敏**

１　現地での生徒の様子

今回のダービーシャー渡航が初めての海外経験となる生徒も多く、出発時から気持ち

を高ぶらせている様子の生徒も多かった。研修初日から活動に前向きに参加したり、BSDC 付近のショッピングセンターで買い物を楽しんだり、生き生きとした生徒の様子が見られた。初日から BSDC ではイギリス人の学生、バディとともに交流する機会が設けられていたが、当初は積極的に英語を話そうとする生徒は少なく、日本人の生徒同士で会話をしている場面が多かった。しかし、そのような状況も次第に減り、積極的にバディとコミュニケーションをとろうと自分から話しかける生徒もいた。

様々なことが日本とは大きく異なるイギリスで、困難を味わった生徒もいた。やはり到着後数日の間は、ホスト宅での家庭ルールに戸惑ったり、食事が合わなかったり、バスの乗り方に苦戦したりということもあった。しかし、そのような経験も生徒にとっては身をもって異文化を実感する良い機会となったのではないかと思う。

２　カルチャーショー（茶道・華道のプレゼン、「当て字会」）

事前準備は出発前から少しずつ進めていたが、実際の会場の状況を把握できなかったこともあり、順調に準備できたわけではなかった。3 日前に会場を下見させてもらったが、当日は想定していなかったゲスト用の大きな座席が設置されたため、実際には当日の朝に計画を大幅に変更することとなった。他校の生徒同士で、短期間で協力して一つのショーを完成させるということに不安もあったが、リーダーを中心にコミュニケーションをとりながら取り組んでいた。直前まで可能な限りの工夫を加え、本番は自分が期待していた以上の出来栄えであったと思う。観てくださった Ann さん、 Stephanie さんを始め、ゲストの方々も口々にお褒めの言葉をくださった。

３　全体を通した感想

多くの生徒は活動やイギリスでの生活に前向きに臨んでいたのではないかと思う。カルチャーショーなどの生徒たちの自主性が試される場面でも、概ね積極的に取り組んでいた。しかし、英語を使って現地の方と交流したり、自ら考えて行動しようとする積極性がさらにあれば、より多く、広い経験ができる場面があったと思う。今回の派遣で生徒たちは日本では決して味わうことができない刺激的な経験ができたと思うし、今後、様々な場面で力となる機会を得たと思う。今回得た力を将来、存分に発揮してくれることを願っています。

# 英語感想文

# Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English

## KAHO KOIDE

I was moved to see cathedral in Litchfield. I felt the cathedral was most beautiful I had ever seen.  I found that place of the cathedral made by carving engraving. When I found that, I thought people who did carving engraving were amazing. I thought to try studying about how to make after going back to Japan. Shape of window, shape of pillar, stained glass, arch and so on. Everything I saw in cathedral was excited for me. I am glad to see old buildings in Litchfield. Between the of Japanese buildings and English buildings was great learning. Koide

## MINAMI KATO

A lot of thanks

Thank you for two weeks.
It was very nice time in British. I was able to spend two weeks safety because of kind people. I was really taken care by ,especially for buddies.
They talked me very slowly and clearly in English, so that I can understand easily.
I will never forget these precious memories made with my friends.
Thanks to our teachers, Ms.Ann, Stephanie, and municipal officers, that they made use able to spend the time safely and enjoyably.
I could find a lot of thanks.
I shall remember the rest of my life that I was able to meet with you all. Thank you.

## MAO SAWANO

【A wonderful time】

This two weeks has been a good experience for me.
Especially, It was very memorable for me
to spend time with buddies and to stay with a host family. I couldn't speak English well.So, they taught me a lot of English.Thanks to that I became easier to listen to English.
My best memories with buddy is Litchfield.When we ate the lunch, buddy taught me sign language. It is very interesting for me . I learned the alphabet in sign language.Also, I was able to talk a lot with buddies. It was nice day♪
And my best memories with my host family is everyday dinner.We ate delicious dinner everyday and we talked about days event. It was nice time .
I love England
I will come back to England.
Also , I will never forget you .

## YUI SUGIURA

British people & supreme memories

I had a great time in England. I often went shopping to buy souvenirs after school. When I was on my way to shopping and getting on the bus elderly women smiled at me. Many shop assistants greeted me with a smile when I paid money. I think scene like this can't see in Japan. So, I was very happy.

Some BSDC students know Japanese words. I taught him a famous Japanese songs. I said " I want you to listen to these music. " He said " I will listen to them tomorrow. " I was pleased that he got interested in Japanese culture.

At first, I don't know bus stop. One of the passengers is an English teacher who told me bus stop gently by chance. The women got off at the bus. Thank you for helping me.

I bothered various people. However, I've been helped many this times by the kindness of British people. Also when I go to England, I would like to help people who are in trouble like her.

## KANA TAKAHAMA

～Please take a picture with me～

At first England was not fun, I thinking wanted to return home as soon as possible. However, it changed into a feeling of being fun on the way.
That's because there was a word "please take a picture with me".
Because I didn't know what to talk about with the British people first, so I don't tried to talk with British people.
But I wanted to talk to cute people and cool people!
So, I tried to talk to British people once.
I said "Please take a picture with me".
Then, the British people said “of course!” So, I have taken a picture with British people.
I felt Britons were very kind then.
From that time,I thought“let's talk with British people!”
It turned to a positive attitude.
Then, I talked about various things such as "future dreams" and "favorite things".
I was glad that my English was transmitted more than anything else.
I thought it important to try talking to people.
If I had not spoken to that time, I might not have had fun every day.
I thought it was good to say.
"Please take a picture with me" Is the best word for me!

## KOICHIRO YAMADA

First, I’m happy to have good experience. I’m afraid of visiting UK before I visit UK. The reason is I think that I don’t have good English ability. But my host family said ‘your English skill is good’. I was very happy then. And they taught me ‘Your communication skill is very nice! It makes us happy.’ I got confidence by this word.

Thanks to this two weeks and Uk’s people, I could find what is the most important thing. It is smile. Smile is world common signal. By using it, We can communicate in English easier.

Finally, Using this experience, I’ll make my future.

## KAZUYA KONDO

I saw cathedral first.

I think cathedral is like temple because I had never visited cathedral. Cathedral was different from temple. I was interested in Lichfield Cathedral in Lichfield by this studying abroad.

I asked someone a question.What gift is famous in Lichfield?

And then they answered I think there is especially nothing.

So,I'm not looking forward to visit Lichfield.But when I really went there,Lichfield Cathedral was very big.And it's not only big, It made high quality to the small place.I was impressed there was skill made this building more 1300 years ago.I want to see this building again.

## AKIKO YAMASHITA

This is my first time to stay abroad. So I am a bit nervous. But the Britain were gentle and cheerful. It was very fun time to spend in the UK. Also I was able to know the culture of Britain and improve my language skills. I was able to spend very productive time.

## SUMIRE TSUKASAKI

I had a great time in the U.K.

I have learned three things from my experience in the U.K.

First of all, this is my first trip in the U.K. So I was very nervous before I came here.

But BSDC's students and teachers were very kind to us . They told us many things.So I was happy to talk with them. It was very fun to eat food in the U.K.

I thought the food of the U.K.was not good. So I worried about food in the U.K before I came here. But the food in the U.K. was very delicious such as fish-and-chips. I want to eat it again now.

Secondly,British people were very kind. For example, when I was trouble in paying money , stuff were told me. Also many people who are riding on the bus always said "Thank you" In Japan, most people don't say "Thank you " such situations.

So I was very surprised at kindness of British people.

Finally, I want to make use of this great experience in my future. I will never forget this experience. Thank you for giving me such good opportunity.

## NEO NONOYAMA

Why are you silent?

"Why are you silent? I'm asking you and need an answer." This is what buddies said when we said nothing but just looked at each other to their question in the UK. It's typical for Japanese to stay silent when they don't understand English. However, it's just annoying and wrong behavior. If you don't understand, you have to ask "excuse me?" or "can you speak more slowly?" Actually I used to stay silent when asked. But this time, I kept in mind not to do so. As a result, I could have wonderful time. So I've decided not to hesitate to speak English, even if I get noisy with too much speaking!

## AYAKA FUJII

Title; Thank you, Derbyshire!

First of all, I appreciate that I participated in the dispatch and I would like to say thank to my host family, Lewis family. I was able to get along with BSDC students who taught me various things, their culture, history and so on. I ate lunch with them which was a great time to become friends. I had some experiences in the UK which I could not do in Japan. In this dispatch, I was able to check my English ability and find my future goal, visit UK at business. I would like to improve my English ability until I visit the UK again!

## AKIYA OKADA

Actually this was my first time to travel. but I had really good time in England.
The best memories that I think is Mini Olympic day.
That day, we had been exercising all the time.
I poor at exercising. Almost members might be as well.
however, the smile gradually increased while exercising.
It seemed like everyone was having fun.
As a result, our team was second!! so, I was able to get silver medal.

I could not get a gold medal but I was able to make precious memories.
Thank you.

## TOSHINOBU NAKAMURA

Title ; Homestay in England

To begin with,　I was able to get a great experience thanks to everyone.
I'm glad that I visited the U.K. I think that It is the most pleasant thing in my life.
This is my first time traveling abroad and first time to visit the U.K. so, I felt nervous when I arrived. However, I felt gradually felt relaxed having a great host family.
I learned a lot of things. I was able to get a lot of memories which are unforgettable for me. I will treasure this experience from now on. I was able to have a peaceful time and make great memories. I will never forget that I experienced.

## MANAKA YUKINO

「cherished memory」

I had a great time in the U.K.This is my first time to visit the U.K.It is the mini-olympics that I was the most fun.Because I like sports very much.The relation between 15 of us deepened by the mini-olympics. I was able to meet a very good member.I remember the days as if it were yesterday.Thank you everyone!!

## SAKI ITAYA

The best two weeks of my entire life

The last two weeks which I spent in the U.K. was absolutely the best two weeks of my entire life. I made so many unforgettable memories during my stay in the U.K. Going to college, having meal with my host family, chatting with buddies, exploring town by myself, and discovering new things about the U.K., they were precious experiences for me. I would not be able to have such a great memories without my host family and buddies. Before I met them, I was so nervous because it was the first time that I spend time in foreign country with using English. However, they were so kind and friendly to me. I am so glad that I could have such an amazing people as my host family and buddies. This study tour will definitely be great experience for my future. I will cherish these lovely memories forever. I hope to see them all again someday in the future. Besides, I want them to come to Japan someday!

## KAZUYO ISHIKAWA

My memories in the UK TOYOTANISHI S.H.S. KAZUYO Ishikawa

(1) Staffs and buddies at BSDC

They were always kind and supportive to us. They were willing to help us all the time. I've heard that the staffs, Ann and Stephanie, had spent a lot of their time preparing for this program in advance. I really appreciate their efforts.

(2) Homestay

I didn't expect myself to stay at a British family. My host mother is younger than I, and has two children. She is always busy with her job and child raising. She let me do at home as I liked, so I always felt easy. I've learned a lot how a British family leads ordinary life.

(3) One day trip to Oxford and Lichfield

Some students wanted to visit London, but I think going to Oxford and Lichfield is better choice to us; otherwise, we would never have chance to go there in life. The streets and buildings including New College and Lichfield Cathedral, were so magnificent that we were overwhelmed.

(4) Japanese Students

I really enjoyed watching how they developed themselves through various activities. At first, most of them hesitated to express themselves in English, but as they were getting used to the life in the UK, they started changing dramatically. I expect them to keep changing themselves from now on.

## MASATOSHI USUI

Completion Report of Delegation Study Tour 2018 at Burton and South Derbyshire College

Masatoshi Usui
(A Leader from Toyota Kita High School)

I. How the students acted in England

This study tour to England was the first experience abroad for some of the students, so they seemed excited from the beginning of the tour. From the first day of the study, most of the students attended the activity with their positive attitude and enjoyed shopping in the shopping centres near the college. They seemed to enjoy their stay. Even though the students had a lot of opportunities to communicate with the British students at college, “buddies”, the Japanese students seemed to communicate only with the Japanese instead of speaking English with buddies. However, gradually, more Japanese students began to communicate with buddies in English. Moreover, some of the students started talking to the buddies positively.

Some experienced difficulty in England, where surroundings are completely different from those in Japan. In a few days just after our arrival, the students seemed to be confused with the rules at their host homes, to struggle with how to ride on the bus and to miss Japanese food. It took a few days them to get used to their new lives. However, it could be a precious opportunity for them to experience the British culture.

II. The Culture Show

On 22nd March, we had the ceremony and the culture show at college. We were grateful that a lot of guests, teachers at college and host families paid a visit to the show. In the show, the Japanese students gave a presentation on the Japanese tea ceremony and the Japanese flower arrangement and they showed the Japanese caricature. The students started preparing for the show before our departure, but

they made some changes to their original plan on the day. Even so, their show was quite satisfying and it was far better than expected.

III. Overall

My impression of the students' behaviour during the study tour was mostly good. However, I believe the students could have even more experience with more activeness. They did gain stimulating experience that could not happen in Japan, and such experience should benefit them in years to come. I expect the students to make full use of the abilities they have acquired through this study tour in their future. I do hope this study tour to Derbyshire will last long and provide students with a lot of opportunities to widen their vision.

豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料

**1　姉 妹 都 市 名**　　イギリス　ダービーシャー３地域
（ダービーシャー県、ダービー特別市、南ダービーシャー市）

**2　提 携 年 月 日**　　平成 10 年（1998 年）11 月 16 日

**3　提 携 目 的**　　両国民が真の友情を育むことを念願し、互いに協力し合い、融和を促し、相互の文化理解を深めることを目的とする。

**4　中学生交換派遣事業**

| 年 | 学生 | 団長 | 副団長 | 引率教諭 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 13 年（2001 年） | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成 14 年（2002 年） | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成 15 年（2003 年） | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成 16 年（2004 年） | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成 17 年（2005 年） | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成 18 年（2006 年） | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成 19 年（2007 年） | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成 20 年（2008 年） | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成 21 年（2009 年） | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成 22 年（2010 年） | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成 23 年（2011 年） | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成 24 年（2012 年） | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成 25 年（2013 年） | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成 26 年（2014 年） | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成 27 年（2015 年） | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成 28 年（2016 年） | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成 29 年（2017 年） | 28 | 1 | 1 | 1 | 31 |
| 計 | 426 | 17 | 17 | 17 | 477 |

## 5　訪問団の交流

| | 年 | 内　　容 |
|---|---|---|
| ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ→<br>豊田市 | 平成 11 年（1999 年） | ダービーシャー青少年吹奏楽団 63 人が来豊。市各所で演奏を行う。また 2 月 17 日には姉妹都市携記念碑除幕式を行う。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 13 年（2001 年） | 第 1 回ダービーシャー県等親善訪問（25 名）<br>平成 13 年 6 月に完成する豊田スタジアムに因んで、サッカー関係者が姉妹都市を親善訪問。現地チームとの親善試合、英国プレミアリーグ地元チームの試合観戦等を通して交流を行う。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 14 年（2002 年） | 第 2 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問（22 名）現地アマチュアカメラマンとの交流を通じて、写真撮影を行う。帰国後は、松坂屋 T-FACE8 階サンシャインホールでの写真展を始め、市内各交流館を循環し写真展を行ない、市民にダービーシャー県等を紹介する。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 15 年（2003 年） | 第 3 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問（23 名）ガーデニングをテーマに、ダービーシャー県等を親善訪問。個人庭園や公共施設の花飾りを視察し、豊田市のまちづくりに活かす。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 16 年（2004 年） | 豊田文化使節団（日本文化を紹介する伝統芸能（邦楽・民謡・三曲等）による演奏集団（38 名））を結成、演奏会やワークショップ等を通じて姉妹都市との市民レベルの交流を深め、文化による国際親善に寄与する。あわせて、豊田市における文化レベルアップを図り、2005 年「愛・地球博」を広くアピールする。 |
| ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ<br>→豊田市 | 平成 17 年（2005 年） | ダービーシャー青少年ジャズオーケストラ 30 人が来豊。市内各所で演奏を行う。また万博英国ナショナルデーの 4 月 22 日には、万博会場にて公演を行う。 |
| ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ<br>→豊田市 | 平成 20 年（2008 年） | 姉妹都市提携 10 周年を記念してダービーシャー県からのアーティスト（コンテンポラリー・ダンサー）及び青少年合唱団（27 名）を受入。 |

| | | |
|---|---|---|
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 20 年（2008 年） | 姉妹都市提携 10 周年を記念して豊田市からアーティスト（三味線演奏者）、ジュニアオーケストラ（42 名）及び市民文化使節団（37 名）を派遣。姉妹都市提携 10 周年を記念して鈴木市長がダービーシャー県等を訪問。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 25 年（2013 年） | 豊田市少年少女合唱団の派遣（56 名）、豊田市ダービーシャー公式訪問団の派遣（10 名）、ダービーシャーフード＆ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。 |
| ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ<br>→豊田市 | 平成 25 年（2013 年） | 「とよた産業フェスタ」へのダービーシャー紹介コーナーの出展とダービーシャーからの参加団（6 名）受入。また、ダービーシャー青少年吹奏楽団（52 名）、ダービーシャー公式訪問団（9 名）を受入。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 26 年（2014 年） | ダービーシャーフード＆ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。 |

**6　その他**

| | 年 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 13 年（2001 年） | 鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問<br>（今後の姉妹都市交流のあり方に関する協議） |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 14 年（2002 年） | 鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問<br>（ダービー特別市市制 25 周年記念式典への出席） |
| ― | 平成 14 年（2002 年） | 英国大使館の植林活動「日英グリーン同盟」への参加表明のため、イングリッシュオークの植樹を実施。 |
| ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ<br>→豊田市 | 平成 17 年（2005 年） | ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市、フリントシャー市の各事務総長と英国トヨタ自動車㈱のスタッフが来豊。（本市との文化交流について協議） |
| ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ<br>→豊田市 | 平成 19 年（2007 年） | ダービーシャー県議員デイブ・ウィルコックス氏、姉妹都市担当ステファニー・ウォルシュ氏来豊（2008 年（平成 20 年）の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ） |

| | | |
|---|---|---|
| ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ<br>→豊田市 | 平成 20 年（2008 年） | 南ダービーシャー市議長マイケル・ベイル氏夫妻来豊（2008 年（平成 20 年）の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ） |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 24 年（2012 年） | 太田市長ダービーシャーを訪問。<br>（2013 年（平成 25 年）姉妹都市提携 15 周年記念事業打合せ） |
| ― | 平成 25 年（2013 年） | 姉妹都市提携 15 周年記念式典を豊田市能楽堂にて開催。また、姉妹都市提携 15 周年を記念して、豊田市とダービーシャーの中学生が、1 つのテーマについて共に考え、意見交換を行う「豊田・ダービーシャー子ども会議」を開催。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 26 年（2014 年） | ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 27 年（2015 年） | ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 28 年（2016 年） | ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。 |
| 豊田市→<br>ﾀﾞｰﾋﾞｰｼｬｰ | 平成 29 年（2017 年） | ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。 |

TOYOTA
TOYOTA MOTOR
MANUFACTURING (UK) LTD

TOYOTA

*Golden Days Abroad in Derbyshire*
*～ 姉妹都市ダービーシャーを訪ねて ～　2018*

**第４回ダービーシャー高校生派遣帰国報告書**
編集・発行　豊田市　経営戦略部　国際まちづくり推進課
〒471-8501　豊田市西町 3-60　TEL0565-34-6963
e-mail : kokusai@city.toyota.aichi.jp